



三省堂 国語教科書

教科書の展開

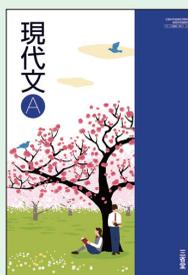
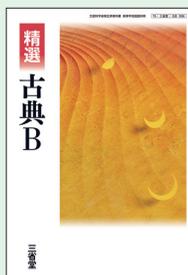
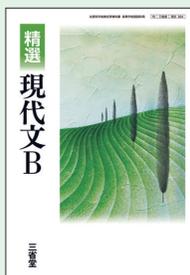
国語総合

現代文B

古典B

現代文A

古典A



※この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書宣伝行動基準」に則って作成しています。

三省堂の高校国語教科書は、 主体的な言語活動を通して 確かな言葉の力を育みます。

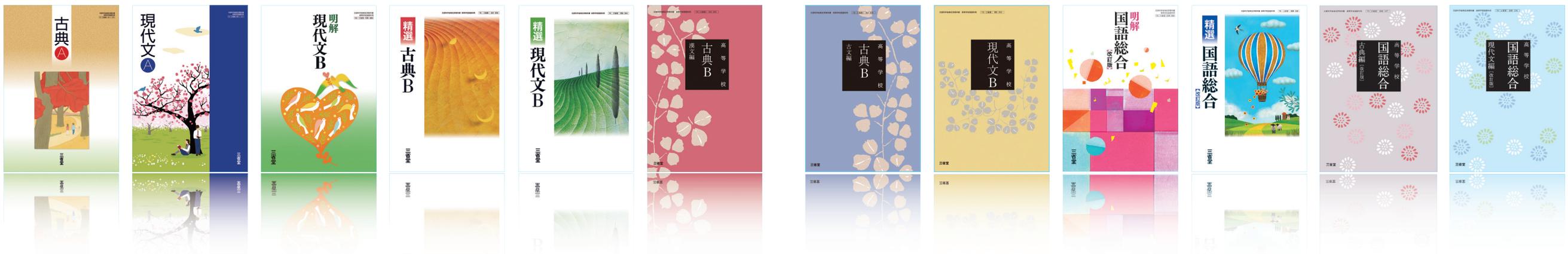
三省堂高校国語教科書の展開

国語総合

| | | |
|------------------|----------|----|
| 『高等学校国語総合』改訂版』 | 目次 | 6 |
| | 現代文教材の内容 | 8 |
| | 教科書の特徴 | 10 |
| 『精選国語総合』改訂版』 | 目次 | 12 |
| | 現代文教材の内容 | 14 |
| | 教科書の特徴 | 16 |
| 『明解国語総合』改訂版』 | 目次 | 18 |
| | 現代文教材の内容 | 20 |
| | 教科書の特徴 | 22 |
| 国語総合 指導書・教材類のご案内 | | 24 |

現代文・古典

| | | |
|----------------------|-----------|----|
| 『高等学校現代文B』 | 目次 | 30 |
| | 教材の内容 | 32 |
| | 教科書の特徴 | 34 |
| 『精選現代文B』 | 目次 | 36 |
| | 教材の内容 | 38 |
| | 教科書の特徴 | 40 |
| 『明解現代文B』 | 目次 | 42 |
| | 教材の内容 | 44 |
| | 教科書の特徴 | 46 |
| 『高等学校古典B』 | 目次 | 48 |
| | 教科書の特徴 | 50 |
| 『精選古典B』 | 目次 | 52 |
| | 教科書の特徴 | 54 |
| 現代文B・古典B 指導書・教材類のご案内 | | 56 |
| 『現代文A』 | 目次・教科書の特徴 | 58 |
| 『古典A』 | 目次・教科書の特徴 | 60 |
| 現代文A・古典A 指導書・教材類のご案内 | | 62 |
| 三省堂高校国語教科書編集委員 | | 63 |
| デジタルテキストのご案内 | | 64 |



三省堂高校国語教科書の展開

高等学校国語総合シリーズ

大学入試を見据え、
良質な教材を豊富に収録した本格派。

高等学校国語総合「改訂版」
(現代文編・
古典編)



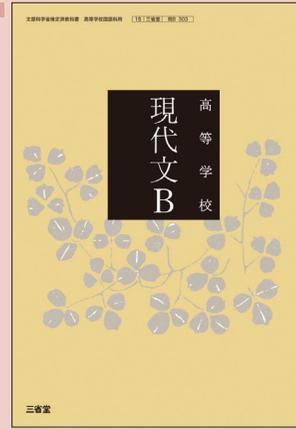
P.6

国総 336 (現代文編)
A5判
280ページ
評論18教材
随想1教材
小説6教材
詩歌6教材

国総 337 (古典編)
A5判
190ページ
古文31教材
漢文26教材



高等学校現代文B



P.30

現B 303
A5判
424ページ
評論21教材
小説14教材
詩歌8教材

高等学校古典B (古文編・漢文編)



古B 304 (古文編)
A5判 252ページ
34作品
*作品数は延べ数です。

P.48

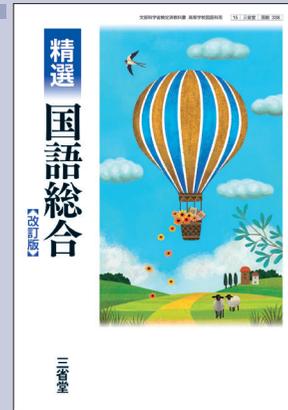


古B 305 (漢文編)
A5判 176ページ
60作品
*作品数は延べ数です。

精選シリーズ

「応用の利く国語力」を身につける、
国語教科書の新たなスタンダード。

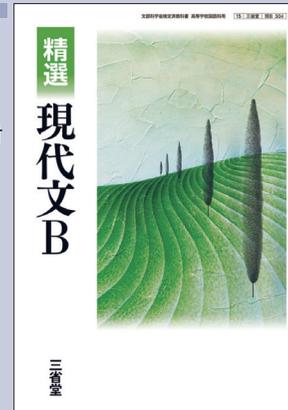
精選国語総合「改訂版」



P.12

国総 338
A5判 400ページ
評論9教材
随想2教材
小説6教材
詩歌6教材
古文23教材
漢文22教材

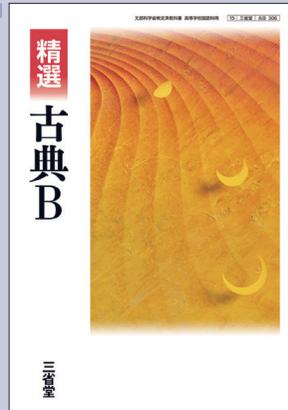
精選現代文B



P.36

現B 304
A5判
400ページ
評論18教材
随想2教材
小説9教材
詩歌8教材

精選古典B



P.52

古B 306
A5判
372ページ
古文35作品
漢文58作品
*作品数は
延べ数です。

明解シリーズ

中学校からの学び直しも視野に入れた、
基礎・基本からしっかり学べる教科書。

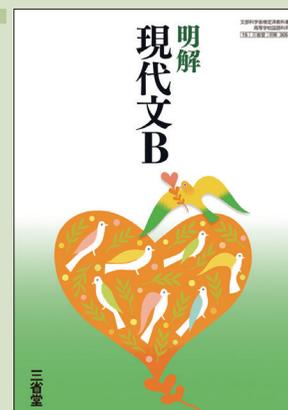
明解国語総合「改訂版」



P.18

国総 339
A5判 360ページ
評論4教材
随想5教材
小説5教材
詩歌6教材
古文15教材
漢文15教材

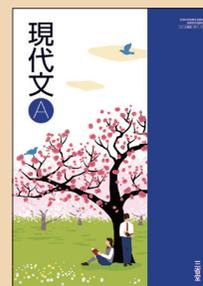
明解現代文B



P.42

現B 305
A5判
356ページ
評論8教材
随想8教材
小説9教材
詩歌7教材

現代文A



現A 303
B5判
152ページ

P.58

古典A



古A 306
B5判
152ページ

P.60

国語総合改訂版の特色

※各シリーズとも、それぞれの教科書の特色を生かした教材構成・紙面レイアウトになっています。ここでは、国語総合を例にご紹介します。

高等学校国語総合「改訂版」

評論教材

現代の諸問題を論じた、読み応えのある評論を充実させました。

146 グローバリゼーションの光と影
小籠英二

147 グローバリゼーションの光と影
小籠英二

149 グローバリゼーションの光と影
小籠英二

精選国語総合「改訂版」

評論教材

主体的な思考を促す、幅広いジャンルの評論をバランスよくそろえました。

情報と身体
吉岡洋

明解国語総合「改訂版」

評論教材

興味・関心を喚起する、明快な文章を取り上げました。

魚は陸から離れない
松浦啓一

魚の生息する環境

古文入門教材

注釈を必要最低限に厳選し、自分で辞書を引きながら古文を読む力を身につけます。

古文編
児のそら寝

11 児のそら寝

10 児のそら寝

古文入門教材

学習を進めるうえで必要な注釈や傍訳をバランスよく提示しています。

古文入門
児のそら寝

216 児のそら寝

217 児のそら寝

古文入門教材

上段に原文を、下段に現代語訳を配し、対照して読めるようになっていきます。

古文入門
児のそら寝

宇治拾遺物語

212 児のそら寝

213 児のそら寝





高等学校国語総合 現代文編「改訂版」

一 随想・評論

本を読むと路に迷う
ありのままの世界は見えない
水の東西
朝吹真理子
田中真知
山崎正和
芥川龍之介

二 小説

羅生門
予感
◆文学の扉 「羅生門」の書き方
青山七恵
黒崎政男
鈴木孝夫
関礼子

三 評論

予感
ネットが崩す公私の境
ものごころば
自然をめぐる合意の設計

四 詩歌

1 子ブタと未来
2 生物と無生物のあいだ
◆読解から表現へ① テーマ型小論文 ↓10ページ
福岡伸一

五 小説

灰色の月
待ち伏せ
志賀直哉
ティム・オプライエン
村上春樹

六 評論

余暇について
「もの」の科学から「こと」の科学へ
マルジャーナの知恵
内山節
池田清彦
岩井克人

七 評論

なぜ私たちは労働するのか
夢は何語で見る？
◆読解から表現へ② 課題文型小論文
多和田葉子

八 小説

富嶽百景
夢十夜
◆文学の扉 甘党 漱石
夏目漱石

九 評論

情報の「メタ」化
見る—考える
美を求める心
外山滋比古
大森荘蔵
小林秀雄

*現代評論を読むために
*読書の扉

表現編

- 1 スピーチをする—対話型スピーチ
 - 2 話し合いをする—ビブリオバトル
 - 3 プレゼンテーションをする—五枚のフリップを使って
 - 4 デイバートをする—マイクロデイバート
 - 5 随筆を書く—一枚の写真から
 - 6 手紙を書く—依頼の手紙
 - 7 レポートを書く—見取り図をもとにして
 - 8 意見文を書く—新聞投書
 - 9 情報を読む—統計資料の読み方扱い方
 - 10 広告を読む—実用的な文章
- 常用漢字表
近現代文学史年表
ないもの、あります

付録

クラフト・エヴィング商会

現代文編 表現編 古文編 漢文編

◎ 評論は充実の18教材。「いま」を読む」では、現代の諸問題を論じた評論を、小論文課題の形で収録。読む力とともに、書く力も身につけます。
◎ 「教室とともに学ぶ」ということを大切にしながら、さまざまな活動をコンパクトにまとめました。
◎ 中古・中世を中心に、国語総合で読んでおきたいジャンル・作品を網羅して配列。さらに、入試を見据え「評論」も豊富に収録しました。
◎ 段階的な入門教材で漢文を読む力を確実に習得。また、故事・漢詩・史話・思想・文章・小説と、主要なジャンルの定評ある教材をそろえました。

高等学校国語総合 古典編「改訂版」

*古典の響き
*古典を読むということ 竹西寛子

【古文編】

一 説話

児のそら寝(宇治拾遺物語)／絵仏師良秀(宇治拾遺物語)
大江山(十訓抄)

二 物語

竹取物語 かぐや姫の生い立ち かぐや姫の成長
伊勢物語 芥川 東下り 筒井筒 梓弓 さらぬ別れ

三 随筆

徒然草(兼好法師)
(参考)つれづれなるままに ある人、弓射ることを習ふに
丹波に出雲といふ所あり 亀山殿の御池に 名を聞くより
友とするにわろき者 九月二十日のころ 花は盛りに

四 日記

土佐日記(紀貫之) 門出 忘れ貝 帰京 ↓11ページ
◆古典の扉 月と暦 ↓11ページ

五 軍記

平家物語 祇園精舎 木曾の最期
◆文法から解釈へ④ 敬語

六 和歌

万葉集・古今和歌集・新古今和歌集
◆古典の扉 和歌—つながろうとする言葉

七 紀行

奥の細道(松尾芭蕉) 旅立ち 那須野 白河 立石寺
◆古典の扉 古典における「旅」

八 評論

俊頼髓脳(源俊頼) 山吹の花
無名抄(鴨長明) まずほの薄 ↓11ページ
うひ山ぶみ(本居宣長)
◆文法から解釈へ⑤ 文字一つの返し

【漢文編】

一 漢文入門

漢文の世界へ／漢文の構造と訓読の仕方
成句・格言を読む
◆置き字と再読文字

二 故事成語

借虎威(戦国策)／蛇足(戦国策)／漁父之利(戦国策)
朝三暮四(列子)／管鮑之交(十八史略)

三 漢詩

春曉 孟浩然 登鸛鵲樓 王之涣 静夜思 李白
江雪 柳宗元 送元二使安西 王維 江南春 杜牧
涼州詞 王翰 春望 杜甫 臨洞庭 孟浩然
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁 白居易
登高 杜甫

四 史話

先從魏始(十八史略)／臥薪嘗胆(十八史略)
晏子之御(史記)／鷄鳴狗盜(史記)
◆古典の扉 歴史を記録する

五 思想

論語・孟子
◆古典の扉 孔子と門人

六 文章

雑説 韓愈

七 小説

桃花源記 陶潜 ↓11ページ
◆古典の扉 読み継がれる「小説」

付録

古文を読むために 歴史的仮名遣い
五十音図いろは歌
古語と現代語／品詞分類／用言と活用形／動詞／省略／形容詞／形容動詞
係り結び／仮定条件と確定条件／助動詞／助詞／敬語／和歌の修辭
資料 古典文法要覧／古典文学史年表／漢文の基本形式／漢文参考略年表
旧国名都道府県名対照図／京都付近地図ほか／平安京条坊図ほか／装束／住居・調度
陰暦／古時刻・古方位 十干と十二支／中国参考地図

一 随想・評論

● 本を読むと路に迷う(朝吹真理子) 読書論

読書をしているとどこまでも自由な気持ちになる。物語と身体が溶け合い、気づけばゆるくくねる路を歩いている。学問としての読書とは全く違う、思いのままに本を読むことの幸福な実感を綴る。

● ありのままの世界は見えない(田中真知) 認識論

同じ風景や映像を見ている、その記憶や解釈が人によって異なるのはなぜか。「見る」という行為は経験と知識に基づいて学習することであり、人は学習した約束ごとに従って「世界」を見ていることを、具体的な逸話をあげて解説する。

● 水の東西(山崎正和) 比較文化論

鹿おどしと噴水から連想される西洋と日本との文化の違いを、「流れる水と、噴き上げる水」「時間的な水と、空間的な水」「見えない水と、目に見える水」といったキーワードを用いながら、二項対立の形式でわかりやすく説明する。

二 小説

● 羅生門(芥川龍之介)

平安時代の荒廃した都を舞台に、生きるために自らの悪行を正当化しようとする老婆と下人の姿をとおして、人の心のありようを描く。「今昔物語集」に収められた羅城門登り層見死人語第十八の逸話に想を得た、近代短編小説を代表する作品。

● 予感(青山七恵)

次々に災難に見舞われる「わたし」が旅行から帰ると、家が消えていた。実家に電話をかけ、泣きながら自分に降りかかる不運の数々を語る「わたし」に、家族が告げた言葉とは、芥川賞受賞作家が描く不思議な世界。

五 小説二

● 灰色の月(志賀直哉)

終戦から間もないある夜、山手線に乗った「私」は、体を大きく揺らしながら眠る少年工と隣り合わせの寄りかかっていた少年を反射的に押し返した。「私」は、その体が驚くほど軽いことに気づく。敗戦から立ち直りゆく中に残る深い爪痕が浮かびあがる小編。

● 待ち伏せ(ティム・オプライエン／村上春樹訳)

ヴェトナム戦争で体験した極限の中の行為。「自分が何もしなければ、あの若者には別の未来があったかもしれない」という思いが、ふとした日常生活の中で「私」を襲う。経験した人間だけが語れる、本場の戦争の話。村上春樹訳で贈る戦争文学の傑作。

六 評論一

● 余暇について(内山節) 社会学

「時間を短縮する機械」を作り出すことで余暇を生もうとする取り組みは、結果として人に何をもたらしたのか。「労働が労働時間の消費になり、今余暇もまた余暇時間の消費に変わろうとしている。現代、自由で満ち足りた創造的な時間とは何かを問う。

● 「PS」の科学から「JUS」の科学へ(池田清彦) 科学論

二十世紀が厳密性と普遍性を追求する「もの」の科学の時代だったとすれば、二十一世紀は個性性と多様性への目配りが必要な「こと」の科学の時代になるはずだ。複雑化する現代社会において求められるものの見方考え方を提起する。

● マルジャーナの知恵(岩井克人) 経済論

「アリババと四十人の盗賊」に登場し、機転でアリババの危機を救う賢女「マルジャーナ」。その行為には、「資本主義の基本原理」と「現代の資本主義の中心原理」の本質とが隠されていた。現代資本主義から見えてくる「ノアの洪水以前から存在していた資本主義と経済機構の秘密」を、古典説話をを用いて解説する。

三 評論二

● ネットが崩す公私の境(黒崎政男) メディア論

かつてニーチェが「誰もが読むことができる」という事態が「書くことばかりか、考えることまで腐敗させる」と述べてから、二世紀がたった。インターネットにより「誰もが著者となる時代」となった今、その功罪を鋭く指摘する。

● ものとは何か(鈴木孝夫) 言語論

全ての「もの」には名前がある。だから、まず「もの」があり、そこへ「ことば」で名前が与えられていると考えがちだ。だが実際は、「ことば」が与えられない「もの」は、存在しないように見えるだけである。「ことば」のはたらきを、「もの」の関係をとおして論証する。

● 自然をめぐる合意の設計(関礼子) 環境論

外部から眺めた自然保護についての「遠景の語り」は、その自然に暮らす人々の「近景の語り」とは相容れない場合がある。自然保護の合意形成のためには、唯一解としてリジッドな制度を構築するのではなく、ゆるやかで曖昧な合意を目指すべきだと主張する。

〈いま〉を読む

● 子ブタと未来(中村安希) 国際交流論

ウガンダの孤児院を訪ねた筆者は、彼らに「何がいちばん必要なのか。」を問い続け、貧困の実態や子ブタのもつ可能性、そして絶対的に必要なものに気づいていく。国際貢献で真に大切なことを率直な筆致で綴る。生物と無生物のあいだ(福岡伸一) 生命論

生命は一度きりで不可逆の営みの中で、「動的な平衡」を保っており、「これを乱すような操作的な介入を行えば、動的平衡は取り返しつかないダメージを受ける」。気鋭の生物学者が、自らの考えを形成する根幹となった、幼少時の二つの体験を述べる。

〈いま〉を読む

● なぜ私たちは労働するのか(内田樹) 労働論

「やりがいのある仕事」を求め、離職・転職を繰り返す若者は多い。だがそれは、受験勉強とアルバイトが涵養した、本質の欠如した労働観の産物にすぎない。個人の努力と集団の利益との関係を手がかりに、働くことの意味と理由を喝破する。

● 夢は何語で見る?(多和田葉子) 比較文化論

複数言語を操るがために「夢は何語で見るのか」という質問に悩まされる筆者は、その問いに對抗するため、南アフリカ共和国の都市ケープタウンに向かう。そこで目の当たりにした、同じニュースが十一もの言語で報道される様子から筆者が想起した、多言語社会のもつ可能性と想定される課題とを語る。

七 評論三

● グローバリゼーションの光と影(小熊英二) グローバリズム論

ナシヨナリズムはグローバリゼーションによって形成され、グローバリゼーションは国家の存在を前提としている。グローバリゼーションとナシヨナリズムという二つの現象が起る仕組みを説き、「グローバリゼーション対ナシヨナリズム」という単純な二項対立ではなく、共犯関係として並存していると指摘する。

● 人として共感できるもの(橋本治) 芸術論

運慶晩年の作、無著菩薩立像と世親菩薩立像。無著と世親は、インドの兄弟僧だ。この二つの像の目に嵌め込まれた玉眼には、苦勞を背負った人間の深い悲しみがそれぞれに描かれている。日本の彫刻を代表する傑作を、著者独自の切り口から論ずる。

● 想像し物語ること(大江健三郎) 文学論

人は想像力をはたらかせるとき、自分が新しくなつたように活気づき、イメージの湧出によって希望や活力を与えられる。哲学者ガストン・バシユラルによる「想像力」の概念を借り受けながら、「想像し物語ること」の力を、自身の経験や文学観に引きつけて述べる。

四 詩歌

● 整のうへ(三好達治)

「あはれ花びらがながれ／おみなごに花びらがれ……」桜の花びらが舞う、み寺の境内の春の情趣と、そこを歩く、孤独な影を引く詩人の憂愁の思いを語る。

● 死なない蝸(萩原朔太郎)

飢餓に耐えかねて自分の身体を食い尽くしてしまう蝸を寓意的に描き、孤独な生の渴望や、充たされないことへの絶望感を表現した散文詩。

● サフラン(新川和江)

地に低く、しかし、空に向かって凛と咲くサフラン。その姿に、孤独を乗り越える希望を見いだす……。たくさんさんのさびしきよ／サフランとなつて咲きなさい」という呼びかけがやさしく響く。

● 崖(石垣りん)

第二次世界大戦末期、サイパン島で追いつめられ崖から飛びこまなければならなかった女たちの悲劇は、未だ終わっていないことを告発する。

● その子(二十)——短歌(二十一首)

与謝野晶子・斎藤茂吉・北原白秋・石川啄木・近藤芳美・寺山修司・河野裕子の作品を三首ずつ収録。

● いくたびも——俳句(二十一句)

正岡子規・高浜虚子・種田山頭火・橋本多佳子・中村草田男・山口誓子・飯田龍太の作品を三句ずつ収録。

● 今日の短歌

佐佐木幸綱・小野茂樹・俵万智・渡辺松男・東直子の作品を収録。

● 今日の俳句

坪内稔典・長谷川權・小澤實・夏石番矢・黛まどかの作品を収録。

八 小説三

● 富嶽百景(太宰治)

静岡の十国峠から見た高い富士。東京のアパートから見た「クリスマス飾り菓子」の富士。山梨の御坂峠から見た「風呂屋のペンキ画」の富士と、甲府の安宿の廊下から見たほおずきに似た富士。「私」の日常と富士山をめぐるできごとを、独特のユーモアと、ペーソスを交え、軽やかに活写した私小説的作品。

● 夢十夜(夏目漱石)

自分が死んだら「百年待つていてください」という女の言葉を守り、再会する日を持つ男を描く「第一夜」。鎌倉時代の仏師運慶が仁王を彫る姿を見て、自分も木から仁王を彫り出そうとする男を描く「第六夜」。現実から解き放たれた奇想の中に、鋭い人間観察が冴える。世にも奇妙な物語。

九 評論四

● 情報の「メタ」化(外山滋比古) 情報論

思考や知識の整理とは、抽象化を高めてより高次のものへと昇華させる「メタ化」を行うことである。ニュースのように具体的な事実のみの第一次情報は、この「メタ化」を行うことで、新たな意味をもつ。思考が具体から抽象へと変化する過程を鮮やかに説く。

● 見る——考える(大森荘蔵) 認識論

幅のない線や広がりのない点、極端に遅い(速い)動きなどは、「見る」ことはできず「考える」ことでのみ現れる。いわば、主婦が晩のおかずとして想像するコロケと同じ性質のものだ。認識の手段として、物事を「見る」と「考える」に大別することの有用性を示す。

● 美を求める心(小林秀雄) 芸術論

絵画や音楽を理解するにはどうしたらよいかという問いに、筆者は「何も考えずに、見たり聴いたりすること」が第一だ、といつも答える。近代批評の先駆者が、芸術鑑賞の極意を平易な語り口で披露する。



*日本語の響き

現代文編

一 随想

「待つ」と「待つこと」

川上未映子

二 小説(一)

羅生門

芥川龍之介

ゴール

三崎重記

三 評論(一)

水の東西

山崎正和

言語は色眼鏡である

野元菊雄

自然をめぐる合意の設計

関礼子

四 詩

旅上

萩原朔太郎

サーカス

中原中也

I was born

吉野弘

崖

石垣りん

五 小説(二)

清兵衛と瓢箪

志賀直哉

青が消える

村上春樹

六 評論(二)

情報と身体

吉岡洋

「もの」の科学から「こと」の科学へ

池田清彦

コインは円形か

佐藤信夫

◇読解から表現へ⑥ 論理構成

↓16ページ

その子二十——短歌十六首

与謝野晶子ほか

いくたびも——俳句十六句

正岡子規ほか

◇読解から表現へ⑦ オリジナリティー

なめと「山」の熊

宮沢賢治

空缶

林京子

◇読解から表現へ⑧ 推敲

なぜ私たちは労働するのか

内田樹

命は誰のものなのか

柳澤桂子

創造力のゆくえ

加藤周一

◇読解から表現へ⑨ 小論文を書く

*読書の扉

*現代評論を読むために

表現

1 スピーチをする——対話型スピーチ

2 話し合いをする——ビブリオバトル

3 プレゼンテーションをする——五枚のフリップを使って

4 デイベートをする——マイクロデイベート

5 随筆を書く——一枚の写真から

6 手紙を書く——依頼の手紙

7 レポートを書く——見取り図をもとにして

↓16ページ

8 意見文を書く——新聞投書

9 情報を読む——統計資料の読み方・扱い方

10 広告を読む——実用的な文章

古文編

一 古文入門 児のそら寝(宇治拾遺物語)

◆文法から解釈へ① 古語辞典

◆古文を読むために① 歴史的仮名遣い/五十音図・いろは歌

◆文法から解釈へ② 用言

◆文法から解釈へ③ 品詞分類/用言と活用形/動詞/省略

◆文法から解釈へ④ 接続助詞「ば」

◆古文を読むために③ 形容詞/形容動詞/係り結び/仮定条件と確定条件

◆文法から解釈へ⑤ 助動詞

◆文法から解釈へ⑥ 助動詞

◆文法から解釈へ⑦ 助動詞

◆文法から解釈へ⑧ 助動詞

◆文法から解釈へ⑨ 助詞

◆古文を読むために⑤ 助詞

◆古文を読むために⑥ 助詞

◆古文を読むために⑦ 助詞

◆古文を読むために⑧ 助詞

◆古文を読むために⑨ 助詞

◆古文を読むために⑩ 助詞

◆古文を読むために⑪ 助詞

◆古文を読むために⑫ 助詞

◆古文を読むために⑬ 助詞

◆古文を読むために⑭ 助詞

◆古文を読むために⑮ 助詞

◆古文を読むために⑯ 助詞

◆古文を読むために⑰ 助詞

◆古文を読むために⑱ 助詞

◆古文を読むために⑲ 助詞

◆古文を読むために⑳ 助詞

◆古文を読むために㉑ 助詞

◆古文を読むために㉒ 助詞

◆古文を読むために㉓ 助詞

◆古文を読むために㉔ 助詞

◆古文を読むために㉕ 助詞

◆古文を読むために㉖ 助詞

◆古文を読むために㉗ 助詞

◆古文を読むために㉘ 助詞

◆古文を読むために㉙ 助詞

◆古文を読むために㉚ 助詞

◆古文を読むために㉛ 助詞

◆古文を読むために㉜ 助詞

◆古文を読むために㉝ 助詞

◆古文を読むために㉞ 助詞

◆古文を読むために㉟ 助詞

◆古文を読むために㊱ 助詞

◆古文を読むために㊲ 助詞

◆古文を読むために㊳ 助詞

◆古文を読むために㊴ 助詞

◆古文を読むために㊵ 助詞

◆古文を読むために㊶ 助詞

◆古文を読むために㊷ 助詞

◆古文を読むために㊸ 助詞

◆古文を読むために㊹ 助詞

◆古文を読むために㊺ 助詞

◆古文を読むために㊻ 助詞

◆古文を読むために㊼ 助詞

◆古文を読むために㊽ 助詞

◆古文を読むために㊾ 助詞

◆古文を読むために㊿ 助詞

現代文編 ◎定評のある教材に加え、現在最も注目されている著者の作品をバランスよく配列。「読解から表現へ」では、「比較」「要約」など、読解を表現へ結びつける技能を抽出し、教材と関連づけて解説しています。 ◎「教室でともに学ぶ」ということを大切にしながら、さまざまな活動をコンパクトにまとめました。現代文編の「読解から表現へ」ともリンクさせています。

古文編 ◎中古・中世を中心に、国語総合で読んでおきたいジャンル・作品を網羅して配列。「文法から解釈へ」は、文法を学ぶことで解釈が深まることを実例をあげて解説し、文法を学ぶ意味を明らかにしました。 ◎漢文の基礎を確実に身につけられるよう、段階的に学習できる入門教材を設定しました。また、故事・漢詩・史話・思想・文章・小説と、主要なジャンルの定評ある教材をそろえました。

漢文編

一 漢文入門 漢文の世界へ/漢文の構造と訓読の仕方

◆置き字と再読文字

◆古典の扉 身近にある漢文

◆借虎威(戦国策)/蛇足(戦国策)

◆古典の扉 漢和辞典の活用

◆春曉 孟浩然 静夜思 李白 江雪 柳宗元

◆送元二使安西 王维 黄鹤楼送孟浩然之广陵 李白

◆凉州词 王翰 春望 杜甫 登岳阳楼 杜甫

◆香炉峰下、新下山居、草堂初成、偶题东壁 白居易

◆漢詩の表現

◆史話 鶏口牛后(十八史略)/先從隗始(十八史略)

◆古典の扉 歴史を記録する

◆古典の扉 論語・孟子

◆古典の扉 孔子と門人

◆雑説 韓愈

◆復活 干宝

◆古典の扉 読み継がれる「小説」

*古典を読むということ 竹西寛子

【付録】 常用漢字表/古典文法要覧/古典文学史年表/漢文の基本形式/漢文参考略年表
【折り込み】 近現代文学史年表
【資料】 古時刻古方位ほか/装束/住居/調度/平安京条坊図ほか/京都付近地図ほか
【前見返し】 旧国名都道府県名対照図 [後見返し] 中国参考地図

一 随想

● ぐうぜん、うたがう、読書のススメ(川上未映子) 読書論
本とはどのような出会いか。本はどのように読むべきか。本の読むと何が起るのか。それらの答えは結局は本を読むことでは得られない。それならば、偶然手に取った本から読み始めるのも一つの方法ではないか。国語の教科書を読むことから始まった自らの原体験をもとに語る、読書のすすめ。

● 「待つ」ということ(鷲田清一) 社会論
さまざまな道具の発達は「待たなくてよい社会」をもたらした。しかし、それは「待つことができない社会」への入口であり、「待たない社会」から「待てない社会」へと続く階段でもあった。かつて「ありふれたこと」だった「待つ」ことが、今では「法外に難しく」なりつつあることの意味と興味を問う。

二 小説 (一)

● 羅生門(芥川龍之介)
平安時代の荒廃した都を舞台に、生きるために自らの悪行を正当化しようとする老婆と下人の姿をとおして、人の心のありようを描く。『今昔物語集』に収められた「羅城門上層見死人盗人語第十八」の逸話を想を得た、近代短編小説を代表する作品。
● ゴール(三崎重紀)
裏通りの空き地に掲げられた「ゴール」と書かれた横断幕。毎月のように場所が変わるといふそのゴールは、いったい何のゴールなのか。現実と非現実を織り交ぜながら、漂流する現代の不安を描く。

三 評論 (一)

● 水の東西(山崎正和) 比較文化論
鹿おとしと噴水から連想される西洋と日本との文化の違いを、「流れる水と、噴き上げる水」「時間的な水と、空間的な水」「見えない水と、目に見える水」といったキーワードを用いながら、二項対立の形式でわかりやすく説明する。

● 言語は色眼鏡である(野元菊雄) 言語論
雪や牛肉の種類から虹の色の数まで、世界をどのように言葉で表すかは、言語によって異なる。つまり、人は言語という「色眼鏡」を通して世界を見ているのだ。それぞれの言語には固有の論理があるが、そこに上下の区別があるわけではない。言語の違いを例に、文化の多様性の認識と異文化理解へとつながる道筋を提示する。

● 自然をめぐる合意の設計(関礼子) 環境論

外部から眺めた自然保護についての「遠景の語り」は、その自然に暮らす人々の「近景の語り」とは相容れない場合がある。自然保護の合意形成のためには、唯一解としてリジッドな制度を構築するのではなく、ゆるやかに曖昧な合意を目指すべきだと主張する。

四 詩

● 旅上(萩原朔太郎)
「ふらんすへ行きたしと思へども／ふらんすはあまりに遠し……」遠い異国の地への憧れをみずみずしく描いた、萩原朔太郎の詩壇デビュー作。

● サーカス(中原中也)

オノマトペ、七五調、リフレイン……さまざまな詩的技術を駆使して描くサーカスの情景に、自らの不安定な姿を忍び込ませる。中原中也の代表作。

● I was born(吉野弘)

英語の受身形から、生まれることが受身であることに気づいた少年が、父との会話の中で生死の悲しみを受け止めていく過程を描く散文詩。

● 崖(石垣りん)

第二次世界大戦末期、サイパン島で追いつめられ崖から飛びこまなければならなかった少女たちの悲劇は、未だ終わっていないことを告発する。

五 小説 (二)

● 清兵衛と瓢箪(志賀直哉)
瓢箪集めに熱中する少年清兵衛は、ある日、震いつきたいほどにいい瓢箪を手に入れ、学校にまで持っていく。しかし、見とがめた教員がそれを取り上げ「家庭で取り締まっていたらどうしよう」と通告すると、以前から清兵衛の趣味を快く思わない父親は瓢箪を全て割ってしまった。個人の趣味と周囲の無理解とをユーモラスに描く小編。

● 青が消える(村上春樹)

一九九九年の大晦日の夜、世界から青い色が消えた。「僕」は友人に電話をかけ、町中を歩いて青が消えた理由を尋ねてまわるが、答えは得られない。それはばかりか「誰も消えた青のことなんか気にしてはいなかった」。愛するものの喪失と、他者と思いを分かち合えない不条理とが生み出す、とまどいや哀しみを描いた物語。

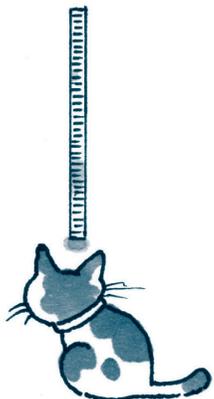
六 評論 (二)

● 情報と身体(吉岡洋) 情報論
情報ネットワークが発達し、「空間的距離や時間的遅れはほとんど縮小されていく」現代。その一方で、身体を移動させる機会は減少し、かえって人は「ますます狭い世界の中に安住するようになっていく」のではないか。技術の発達による恩恵は享受しながらも、同時に「人間が常に身体を伴った存在であること」を再確認する必要性を説く。

● 「P」の科学から「J」の科学へ(池田清彦) 科学論
二十世紀が厳密性と普遍性を追求する『もの』の科学の時代だったとすれば、二十一世紀は個別性と多様性への目配りが必要な『こと』の科学の時代になるはずだ。複雑化する現代社会において求められるものの見方・考え方を提起する。

● コインは円形か(佐藤信夫) 認識論

コインが「円形」なのは一つの視点から見た場合であつて、それがコインの全容ではない。価値が多様化し、異文化圏との交流が日常的な時代においては、「自分の視点と自分の言葉遣いだけ」を信じることもなく、「認識的な思いやり」をもつことが求められる。身近な事例に、物事を多角的な視点から捉える意義を論じる。



七 短歌・俳句

● その子二十——短歌十六首
与謝野晶子・斎藤茂吉・北原白秋・石川啄木・近藤芳美・寺山修司・佐佐木幸綱・河野裕子の短歌を二首ずつ収録。また、「今日の短歌」として、小野茂樹・俵万智・渡辺松男・穂村弘・東直子の作品を収録。

● いくたびも——俳句十六句

正岡子規・高浜虚子・種田山頭火・橋本多佳子・西東三鬼・中村草田男・山口誓子・細見綾子の作品を二句ずつ収録。また、「今日の俳句」として、坪内稔典・長谷川權・小澤實・夏石番矢・黛まどかの作品を収録。

八 小説 (三)

● なめとこ山の熊(宮沢賢治)
なめとこ山で熊撃ちをして生きる淵沢小十郎は、殺した熊にも礼儀をつくし、熊の言葉だつてわかるような気がするほどの男だった。熊たちも彼を好いており、一度小十郎が見逃した後、彼の家の前まで来てから死ぬまでのまていた。そんな小十郎が、冬のある日に向かった山で遭遇したできごととは。東北の厳しい自然に生きる、人と動物の交流譚。

● 空缶(林京子)

長崎で被爆した五人の女生徒。それから三十年がたち、母校に集った彼女たちは、それぞれの事情を抱えながら大人になっていた。語り合う中で浮かびあがる、少女の頃の日々と今なお苦しむ後遺症。作者の実体験と思いがこめられた自伝的小説。

九 評論 (三)

● なぜ私たちは労働するのか(内田樹) 労働論
「やりがいのある仕事」を求め、離職・転職を繰り返す若者は多い。だがそれは、受験勉強とアルバイトが涵養した、本質の欠如した労働観の産物にすぎない。個人の努力と集団の利益との関係を手がかりに、働くことの意味と理由を喝破する。

● 命は誰のものなのか(柳澤桂子) 生命論

医療技術の発達により、以前であれば確実に死に至る病やけがでも、一命をとりとめることができるようになった。それは生きる機会を広げる一方で、「死ぬ権利」が問題となる事態を招いている。終末期医療をめぐるのは、アメリカでの事例をきっかけに、海外で法律の整備などが進められているが、日本においても「治療の存続を患者自身が決めるもの」という考え方が大きくなりつつあるようである。しかし、その考え方が「正しい」とも言えない。「正しい」答えのない複雑な課題に対して、さまざまな意見に耳を傾けることを提言する。

● 創造力のゆくえ(加藤周二) 芸術論

新・旧の対立でものを考えることは、近代化の過程において現れざるを得なかった傾向である。しかし、創造するということは「古いものを忘れて新しいものをその代わりに受け入れる」ことではなく、「古いものを受け入れて新しいものをそこに付け足す」ことだ。そのためには、創造的な仕事に人格の全体を投じ、古いものを全て学びつくすことが必要である。徳川時代の芸術や思想に範をとり、日本の創造力が向かうべき道筋を示す。

「もの」の科学から「こと」の科学へ

二十世紀は科学の時代であった。もちろん、二十世紀も科学の時代になることをい

「現代評論を読むために」

「引用」「要約」「論理構成」などのスキルを、教材本文を用いて解説する帯

論理的思考へと導く評論教材

教材として定評のある評論から、近年注目されている評論家の文章まで、幅広く収録しました。

山梨県RDB(昆虫類) チョウ類. Table with columns: No, 種名, 生息地, 分布率, etc. Includes a bar chart showing distribution rates.

文章だけでなく、表やグラフなどと関連づけてさまざまな情報を読み解く力を養います。

古典編

伊勢物語

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経よほむわたけるを、からう



「字句の手引き」

「伊勢物語巻」(鎌倉時代のものを江戸時代後期に写)

読解を支える工夫を凝らした古典教材

図版や資料を配置したり、内容理解のポイントを脚間で示すなど、古典の読解を助ける工夫を随所に凝らしました。

作品の成立年代を示した「成立年代バー」。文学史におけるその作品の位置がひと目でわかります。

「成立年代バー」. A vertical bar chart showing the relationship between the establishment of the text and the author's life.

古典文法を確実に身につけるコラム

古文編では、教材を例に文法を解説した「文法から解釈へ」で、文法を学ぶ意味が実感でき、理解がより深まります。

漢詩の表現. Text explaining the structure and meaning of classical Chinese poetry, including examples like '杜陂の春望'.

助動詞

「助動詞」. Text explaining the usage and classification of auxiliary verbs in classical Japanese.

レポートを書く

「レポートを書く」. A detailed guide on how to write a report, including sections for '目的を明確にする' and '手段を考える'.

「引用」「要約」「論理構成」などのスキルを、教材本文を用いて解説する帯



現代文編 表現編 古典編

◎定評のある教材に加え、清新な教材を発掘。平易な文章にして、生徒の思考を促し心に残る教材をそろえました。

◎短時間で取り組む活動と、じっくり取り組む活動との二系統で構成。「教室でもに学ぶ」ということを大切にしながら、表現することの楽しさを体験できるように工夫しました。

◎国語総合で読んでおきたい作品を厳選して採録。古典文法や漢文訓読の基礎も確実に押さえられるようにしました。コラムや図版・写真を豊富に盛りこみ、古典により親しみやすくなりました。

現代文編・表現編

- 1 随想一 ベトナムのコーヒー屋
負け方を習得する
◆話す・聞く1 自分を印象つけるスピーチ 自分を漢字で表すと？
とんかつ
オムライス
◎ブックガイド1
◆話す・聞く2 なんて、言っている？ ↓22ページ
シリウス
シジミ
校庭で
◎ブックガイド2
◆書く1 隣の友達
魚は陸から離れられない
◆読み比べ 海ガメの無念
◆書く2 情報の読み方・扱い方
ツゴイネルワイゼン
◆書く3 私の発見や変容を伝える 感想文・報告文
◎ブックガイド3
バスに乗って
なめとこ山の熊
◆話す・聞く3 この本を読んでみて！ ブックトーク
- 2 小説一
3 詩
4 評論一
5 随想二
6 小説二
7 短歌・俳句
8 評論二
9 随想三
10 小説三
11 評論三

資料編

原稿用紙の使い方
手紙の書き方
情報の収集と発信
話し合いの方法
表現テーマ例集

- 古典文法要覧
- 単語の分類
- 動詞活用表(文語・口語)
- 形容詞活用表(文語・口語)
- 形容動詞活用表(文語・口語)
- 文語助動詞活用表(文語・口語)
- 文語助詞の分類
- 古文重要語句

古典編

- *古典の響き 竹取物語・枕草子・平家物語・徒然草・奥の細道・春暁・論語 ↓23ページ
- 古文
1 古文入門 古文の世界へ
児のそら寝(宇治拾遺物語)
検非違使忠明(宇治拾遺物語)
◆古文のとびら1 歴史的仮名遣い・古語の意味と形 ↓23ページ
徒然草 公世の二位のせうとに 高名の木登り
丹波に出雲といふ所あり
枕草子 五月ばかりなどに にくきもの
方丈記 ゆく河の流れ
◆コラム 三大随筆
- 2 随筆
- 3 物語 伊勢物語 芥川 筒井筒
「筒井筒」について 『恋する伊勢物語』より 俵万智
うたごころ 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集
◆コラム 三大歌集
- 4 和歌
- 5 軍記 平家物語 木曾の最期
◆古文のとびら4 敬語
◆コラム 源氏物語の世界へ
古典文法の要点 1 用言の活用 2 助動詞・助詞

漢文

- 1 漢文入門 漢文の世界へ
故事成語 虎の威を借る ↓23ページ
蛇定
◆コラム 故事成語と遊説家
- 2 漢詩 漢詩の世界
静夜思 李白／勸酒 于武陵／涼州詞 王翰
江南春 杜牧／月夜 杜甫
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁 白居易
◆コラム 日本人と唐詩
◆漢文のとびら 漢詩の形式
論語の言葉 学問 生き方 人との関わり
◆コラム 孔子の人生
史話を読む 三国志の人々
蓋頭上題合字(世説新語)
前有大梅(世説新語)
死諸葛走生仲達(十八史略)
◆コラム 三国志を楽しもう ↓23ページ
訓読のきまじ
- 3 語録
- 4 史話

- 文学史年表
- 漢文参考略年表
- 漢文の基本形式
- 常用漢字表付表
- 古典の中の植物・古典の中の色
- 装束
- 住居・調度
- 時刻・方位・干支表・月の異名・陰暦月齢表
- 旧国名・都道府県名対照図
- 平安京条坊図・内裏・大内裏
- 京都付近地図・奈良付近地図
- 中国参考地図

1 随想 一

●ベトナムのコーヒー屋(角田光代) 「ミニテーション」
ベトナム旅行の際に逗留した海辺の町、ニャチャン。そこ
で屋台のコーヒー屋を営む親子と知り合った筆者は、毎
日のようにその店へ通うようになる。「どここの国のもの
もない言葉で、あれやこれやと話をしてお互い意味
をわかったような気持ちになつてげらげらと笑った」
日々、忘れられない思い出を綴る滞在記。

●負け方を習得する(内田樹) 生き方・考え方

昨今は「どうやって勝つか」ばかりを考え、決して
「負け」を認めないのが風儀らしい。だが現実には、ほ
とんどの場合において、私たちは負けることのほうが
多いのではないか。「死ぬまで勝ち続けることは誰に
もできない」ことを認め、負けることから学ぶ大切さ
を説く、「適切な負け方」のすすめ。

2 小説 一

●とんかつ(三浦哲郎)

北陸の小さな宿に青森から泊まりにきた母子連
れ。目的は近くにある禅宗の大本山に息子を入門さ
せることだった。夕食に母親は息子の好物のとんかつ
を所望し、二人はしみりと別れの食事をとる。翌
年、けがをした息子の見舞いに訪れた母親の気持ち
を察した女将はとんかつを準備し、凛とした僧になっ
た少年は、匂いに気づくと黙つて合掌して母親の部屋
へと上がつていった。母子の情愛と、それを見つめる周
囲の人間との交流を鮮やかに描いた小編。

●オムライス(宮下奈都)

いつも独りぼっちだった男の子が、ある日公園のベンチ
で古い本を拾う。そこには、オムライスの作り方が書か
れていた。初めてどうにか一人でできたオムライ
スを完成させた男の子の胸の中に、たかぶりと疲労、無
念、緊張、さまざまな気持ちの波が立つ。それから、
ただぼろりと独りで母の帰りを待つこともなく、その
本を何度も読み、夢中で繰り返しオムライスを作るよ
うになる。そして、とびきりのオムライスを作れるよ
うになったとき、男の子は独りであることを忘れていた。
一冊の本をきっかけに男の子が変容していく姿をおし
て、何かとつながることの喜びを描く。

3 詩

●シリウス(石津ちひろ)

「冬の夜空で輝くシリウスのように際立つ」おもひのた
け」とはどのようなものか。限られた言葉で綴られた
清新な詩から、「わたし」の抱く「おもい」を想像する。
シジミ(石垣りん)

●夜中の台所で口をあけて生きている「シジミ」。そ
れに向かつて「鬼ババ」のように笑う私も、うつすら口
をあけて寝るしかない。日常のひとこまから、生の深
淵をのぞかせる佳品。

●校庭で(小野十三郎)

だれもない校庭で、卒業していく生徒たちを思
い、「未来という言葉」を思い浮かべる。大阪文学学校
を創設し、校長として多くの作家を育てた作者によ
る、教え子への思いあふれる作品。

4 評論 一

●魚は陸から離れない(松浦啓二) 自然・環境

「魚は水さえあれば地球上のあらゆる所で生息できる
といつても過言ではない」にも関わらず、全ての海水魚の
およそ八〇パーセントが、全海洋の僅か八パーセントの浅
い海にひしめいている。魚の生息環境とそこでの意外な生
態や多様性、そしてそこから生まれる魚と人間との深い
結びつきを、豊富な写真やグラフとともにわかりやすく
解明する。

5 随想 二

●ツゴイネルワイゼン(黒柳徹子) 戦争・平和

「チゴイネルワイゼン」は筆者にとつて、思い出深い曲の一
つである。当時楽団のコンサートマスターであった父が家
でよく弾いていた曲であった。その父が戦争に召集され
後、疎開した青森で偶然耳にして初めて曲名を知ること
となった。その後、父の死後に届いた手紙では、この曲をき
っかけに父の軍隊での様子を知ることができた。父と自
分をつなぐ導線となった二曲の記憶。

6 小説 二

●バスに乗って(重松清)

入院した母を見舞うため、一人でバスに乗るように
なった小学五年生の少年は、ことあることに同じ運転
手のバスに乗り合わせる。母の入院が長引くにつれて
不安が募る少年と、ぶつきらぼうな口調でささいな行
動にも注意をする運転手とが織りなす人間模様
を、少年の心情に寄り添いながら巧みに描いた短編。

●なめとこ山の熊(宮沢賢治)

なめとこ山で熊撃ちをして生きる淵沢小十郎は、
殺した熊にも礼儀をつくし、熊の言葉だつてわかるよ
うな気がするほどの男だった。熊たちも彼を好いてお
り、二度小十郎が見逃した後、彼の家の前まで来てか
ら死ぬものまでいた。そんな小十郎が、冬のある日に
向かった山で遭遇したできごととは。東北の厳しい自
然に生きる、人と動物の交流譚。

7 短歌・俳句

●遠い片手 短歌九首

「ふたり」生きる「空」という三つのテーマで、与謝
野晶子・斎藤茂吉・岡本かの子・小島ゆかり・穂村弘・
東直子・佐藤弓生・松村正直・永田紅の作品を収録。

●麦わら帽子のへこみ(穂村弘)

石川啄木・俵万智・若山牧水の作品を例にあげな
がら、「共感」「驚異」「クビレ」をキーワードに短歌
表現を分析し、なぜ短歌が人を感動させるのかを明
らかにする鑑賞文。

●春のオルガン 俳句十二句

「音楽」「光」「生きもの」「人と人」という四つのテ
ーマで、正岡子規・高浜虚子・萩原井泉水・飯田蛇笏・
橋本多佳子・中村汀女・加藤楸邨・篠原鳳作・森澄
雄・鎌倉佐弓・浦川聡子・大高翔の作品を収録。

8 評論 二

●水の東西(山崎正和) 比較文化

鹿おどしと噴水から連想される西洋と日本との文
化の違いを、「流れる水と、噴き上げる水」「時間的な
水と、空間的な水」「見えない水と、目に見える水」と
いったキーワードを用いながら、二項対立の形式でわか
りやすく説明する。

●問題解決の心理学(堀井秀之) 心理・脳

私たちは「問題解決」というと、何か難しいことに取
り組む「ことだ」と考えがちだ。だが実際は、日々直面
する問題を、無意識のうちにコンピュータより「はる
かに効率的」に解決しているのである。人が膨大な情
報の中から必要な情報を選択して問題解決に結びつ
けるメカニズムを、「記憶」と「因果関係」をキーワード
に論ずる。

9 随想 三

●豊かな仕事言葉(小関智弘) 労働・言語

挽(ひ)く、剥(む)す、剥(む)く、刮(き)く、揉
(も)む、盗(ぬす)む……全て工場で鉄を削るときに
使う言葉だ。同じ削るという作業を、使う道具や削る
厚さによって、さまざまに区別して表現しているのだ。
これらの言葉は、現場で手応えをもつて仕事をし
てきた人間によって培われてきた。マイクロエレクトロニ
クス技術の進歩により、機械の前に立ちながらも、自
分が削っているという実感を抱きにくい現在、これらの
豊かな言葉がほとんど消えている。言葉とともに、も
のづくりの大切なものまで失いつつあることに警鐘を
鳴らす。

10 小説 三

●発見最初は気づかない(福岡伸一) 科学・探究

「虎穴に入らずんば虎児を得ず」という故事がある
が、科学の世界では、その穴がはたして虎穴なのかどう
か、仮に虎穴だとしても虎児を得られるのかどうかは
全く保証されていない。むしろ、最初から虎児がいると
期待されている虎穴からは、おそらく見逃したものは得
られない。さらに、たとえ虎児が潜んでいたとしても、最
初に虎児には見えないか、何もないように見えるもの
だ。「私たちが今日、発見として知っている多くの事実
は、最初それが発見であることすらわからなかった。」生
物学者である筆者が、自ら発見した遺伝子GP2にまつ
わるエピソードをとおして語る。

●羅生門(芥川龍之介)

平安時代の荒廃した都を舞台に、生きるために自ら
の悪行を正当化しようとする老婆と下人の姿をおし
て、人の心のありようを描く。「今昔物語集」に収められ
た「羅城門上層見死人盗人語第十八」の逸話に想を
得た、近代短編小説を代表する作品。

11 評論 二

●届く言葉、届かない言葉(鷲田清一) 「ミニテーション」

病院の待合室で本の朗読をねだりながら、母親が読
み始めると別のことを始め、読み終わったり中断したり
すると再読をせがむ幼児。彼らが求めているのは本の内
容ではなく、自分が「母親の意識の宛先になっている状
況」であり、「もっぱら私のみを宛先としている声」なの
だ。人と社会との関係性から見える、声に秘められた役
割と意味とを論ずる。

指導資料

教材研究に役立つ資料や、実際の授業や評価で活用できる情報を豊富に掲載しています。

| 213 教科書(p.53~p.61) | | 212 評論- 言語は色眼鏡である | |
|---|--|---|--|
| <p>学習指導の展開と評価</p> <p>● 学習指導要領(配当時間)の要約</p> <p>● 学習指導要領内容</p> | <p>教材のねらい</p> <p>● 学習指導要領</p> <p>「言語は色眼鏡である」という文章の意味や、言語の機能について、具体的な例をあげながら論議を展開して、思考・言語の機能としての言語を、筆者は「色眼鏡」として表現し、世界というものは、たいてい同じであると考えられる高校生に、ある言語は、その言語社会で決まった、世界をどうとらえているかの考えを反映して、おり、</p> | <p>評価</p> <p>「客観世界」というものは、純粋には存在してはならない。「色眼鏡」を「色眼鏡」を通して世界を見ていく「色眼鏡」には上下の区別はないと示している。</p> <p>「言語は色眼鏡である」という文章の意味や、言語の機能について、具体的な例をあげながら論議を展開して、思考・言語の機能としての言語を、筆者は「色眼鏡」として表現し、世界というものは、たいてい同じであると考えられる高校生に、ある言語は、その言語社会で決まった、世界をどうとらえているかの考えを反映して、おり、</p> | <p>学習指導要領</p> <p>「言語は色眼鏡である」という文章の意味や、言語の機能について、具体的な例をあげながら論議を展開して、思考・言語の機能としての言語を、筆者は「色眼鏡」として表現し、世界というものは、たいてい同じであると考えられる高校生に、ある言語は、その言語社会で決まった、世界をどうとらえているかの考えを反映して、おり、</p> |

| 219 教科書(p.53~p.61) | | 218 評論- 言語は色眼鏡である | |
|--|--|--|--|
| <p>5-4 スキーマ</p> <p>「色眼鏡」を「色眼鏡」を通して世界を見ていく「色眼鏡」には上下の区別はないと示している。</p> <p>「言語は色眼鏡である」という文章の意味や、言語の機能について、具体的な例をあげながら論議を展開して、思考・言語の機能としての言語を、筆者は「色眼鏡」として表現し、世界というものは、たいてい同じであると考えられる高校生に、ある言語は、その言語社会で決まった、世界をどうとらえているかの考えを反映して、おり、</p> |

指導書

| | 高等学校国語総合 現代文編 古典編 | 精選国語総合 | 明解国語総合 |
|---|----------------------|---------|---------|
| 指導資料 | 📖 | 📖 | 📖 |
| 発問例集 | 📁 | 📁 | 📁 |
| ワークシート ➡ P.26 (構成・内容理解、語句・漢字学習、古文品詞分解、漢文書き下し文、古典口語訳) | 📁 | 📁 | — |
| ワークシート ➡ P.26 (学びの道しるべ、語句・漢字、本文語句、本文漢字、構成・内容理解、古文品詞分解、表現活動) | — | — | 📁 |
| 基本テスト ➡ P.27 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 評価問題 ➡ P.27 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 実力問題 ➡ P.28 | 📁 | 📁 | — |
| 補充教材 ➡ P.28 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 教科書原文 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 朗読CD | 📁 | 📁 | 📁 |
| 漢文エディタ | — | 📁 | 📁 |
| 学習課題ノート ➡ P.29 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 教師用教科書 ➡ P.29 | 📖 | 📖 | 📖 |
| 本体価格(予価) | ¥15,000 | ¥11,000 | ¥24,000 |

※「発問例集」の内容は「指導資料」にも含まれています。
※「高等学校国語総合」は「現代文編」「古典編」で別売になります。

指導書別売品

| | | | | |
|------------------|--------|--------|--------|--------|
| 教師用教科書 ➡ P.29 | 📖 | 📖 | 📖 | 📖 |
| | ¥3,000 | ¥3,000 | ¥5,000 | ¥5,000 |
| 指導資料PDF版 | 📁 | 📁 | 📁 | 📁 |
| | ¥5,000 | ¥5,000 | ¥5,000 | ¥5,000 |

※指導書セットの「教師用教科書」と内容は同じです。

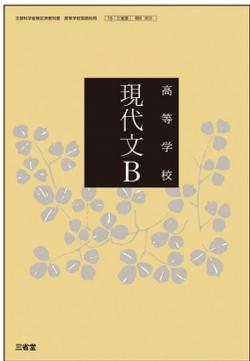
※指導書セットの「指導資料」の紙面をPDFファイルにしたものです。
※「高等学校国語総合」は「現代文編」「古典編」が一つになっています。

生徒用教材(採用品)

| | | | | |
|-------------------|------|------|------|------|
| 学習課題ノート ➡ P.29 | 📖 | 📖 | 📖 | 📖 |
| | ¥500 | ¥500 | ¥600 | ¥600 |

デジタルテキスト

| | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|
| 指導者用デジタルテキスト ➡ P.64 | 📁 | 📁 | 📁 | 📁 |
| 学習者用デジタルテキスト ➡ P.64 | 📁 | 📁 | 📁 | 📁 |



高等学校現代文B 1部

| | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|------------------------------------|--|------------------------|
| <p>◆ 評論</p> <p>木を伐る人／植える人 「市民」のイメージ 現代評論を読むために① 近代</p> <p>↓ 34ページ</p> | <p>◆ 小説</p> <p>山月記 少女</p> | <p>◆ 評論</p> <p>ミロのヴィーナス ホンモノのおカネの作り方 人類による環境への影響 現代評論を読むために② 環境</p> | <p>◆ 詩歌</p> <p>パンの話 帰途 永訣の朝 大きなる——短歌十六首</p> | <p>◆ 評論</p> <p>擬似群衆の時代 病と科学 ロゴスと言葉 現代評論を読むために③ 言語</p> | <p>◆ 小説</p> <p>夏の花 ひよこの眼</p> | <p>◆ 評論</p> <p>南の貧困／北の貧困 戦争の不可能性 「ひよこの眼」[hone]「ひよこ」 現代評論を読むために④ グローバリゼーション</p> | <p>◆ 小説</p> <p>こころ</p> |
| 赤坂憲雄 日野啓三 | 中島敦 河野多恵子 | 清岡卓行 岩井克人 鷺谷いづみ | 吉原幸子 田村隆一 宮沢賢治 | 港千尋 柳澤桂子 丸山圭三郎 | 原民喜 山田詠美 見田宗介 西谷修 丸山真男 | 夏目漱石 | |

批評のまなざし

↓ 34ページ

ネット上の発言の劣化について
空白の意味
科学の現在を問う

内田樹
原研哉
村上陽一郎

高等学校現代文B 2部

| | |
|---|-------------------------------------|
| <p>◆ 評論</p> <p>ぬくみ 身体像の近代化 身体への疎外 現代評論を読むために⑤ 生命・身体 抗争する人間 虚ろなまなざし ある（共生）の経験から 現代評論を読むために⑥ メディア情報 陰翳礼讃 日本文化の雑種性 無常ということ 現代日本の開化 現代評論を読むために⑦ 芸術・文化</p> | <p>◆ 小説</p> <p>舞姫 檸檬 美神</p> |
| 鷺田清一 野村雅一 黒崎政男 今村仁司 岡真理 石原吉郎 | 森鷗外 梶井基次郎 三島由紀夫 |

詩歌

靴
涙の贈り物
ギリシア的抒情詩
湖水
時計
鞆は——俳句十六句
◆ 広がる言葉の世界【翻訳】

安部公房
レベッカ・ブラウン
柴田元幸訳
西脇順三郎
金子光晴
萩原朔太郎

現代評論を読む

↓ 35ページ

累積的社会・停滞的社会
写真に何が可能か
コミュニケーションに未来はあるか

Cレヴィ・ストロース
川田順造・渡辺公三訳
多木浩一
大澤真幸

表現と実用の文章

↓ 35ページ

情報の読み方・扱い方
報道の文章
調査から発表へ
脚本の世界——創作

付録

読書の扉／生活調度／近現代文学史年表
◆ 広がる言葉の世界【名訳】

小 説 評 論

◎ 質・量ともに充実の21本（1部11本・2部10本）。「批評のまなざし」3本と「現代評論を読む」3本を加えれば受験に必要な分野をほぼ全て網羅できます。

◎ 近代から現代までの定番教材を中心にした10本（1部5本・2部5本）。現代文の学習で求められる教材がそろっています。

◎ 短い評論文と記述式の課題とで構成。小論文やAO入試対策にも役立ちます。

◎ 通常の教材文より高度で現代的な話題を扱った文章を精選。グローバルな視点を養います。

高等学校現代文B 教材の内容

1部

一 評論

● 木を伐る人／植える人(赤坂憲雄) **環境論**

木を「伐る」と「植える」ことは人にとって対立ではなく共存する事柄だったことを、実証的な研究成果から明らかにする。

● 市民のイメージ(日野啓三) **社会論**

アメリカの陪審制度の考察をとおして、「市民に「生まれる」のではなく、「なる」のだと能動的に捉えることを説く。

二 小説

● 山月記(中島敦)

若くして才能を発揮し、詩作にふけた李徴を待っていたのは、数奇な運命だった。

● 少女(河野多恵子)

初対面の挨拶に失敗し、隣人の女性との意思疎通がぎこちなくなつた少女が取つた態度とは。

三 評論

● ミロのヴィーナス(清岡卓行) **芸術論**

「ミロのヴィーナス」の失われた両腕に美を見いだし、人間存在のありようを洞察した論考。

● ホンモノのおカネの作り方(岩井克人) **経済論**

「ホンモノのおカネ」とは何か。貨幣の本質について、鮮やかなパラドックスによって描き出す。

● 人類による環境への影響(鷺谷いづみ) **環境論**

人類が自然を力で克服する「征服型」の環境戦略が、地球環境に急激な変化を引き起こしている可能性を論じる。

四 詩歌

● パンの話(吉原幸子)

「パン」と「バラ」とおして、生と芸術の境界線を生きた「わたし」の決意を表した作品。

● 帰途(田村隆一)

言葉を「おぼえること」で「ほくは」きみ「何を知らなかったのか。言葉と心の関係を鮮やかに切り取る。

● 永訣の朝(宮沢賢治)

「いもうと」が死ぬ前に「わたくし」に頼んだこと、それが意味することとは。若くして死んだ妹に送る挽歌。

● 大きなる——短歌十六首

佐佐木信綱から穂村弘まで近現代の歌人十六人の秀歌を、「卵」「木」「雲」「あなた」「制服」「夕焼け」「釘」「帽子」の八つのジャンルに沿って選んだアンソロジー。

五 評論

● 疑似群衆の時代(港千尋) **メディア論**

コンピュータと情報通信機器を通じて形成された現代の群衆とは。彼らの特徴を擬似性と待機性から説明する。

● 病と科学(柳澤桂子) **生命論**

病気の治療において、科学は多くの利益をもたらしたが、病氣から人間を排除した。科学に全てをゆだね、人間が病を受けとめる力を失っていくことの危うさを論じる。

● ロゴスと言葉(丸山圭三郎) **言語論**

「ロゴス」とは対象を「とり集めて目の前に置く」ことであり、それこそが言葉のもつ働きであることを説く。

六 小説

● 夏の花(原民喜)

妻の初盆を前に夏の花を墓前に手向けたその二日後、ふるさとの街に原子爆弾が炸裂する。原爆後の悲惨な状況を手記形式で綴った「私」の物語。

● ひよこの眼(山田詠美)

中三の途中で転向してきた「彼」と「私」の出会いと、突然訪れた悲しい別れ。思春期の淡い恋と心の痛みを描いた小編。

七 評論

● 南の貧困／北の貧困(見田宗介) **グローバリズム論**

先進資本主義国による貨幣の尺度で計られた「貧困」と、測定できない「幸福」とは、別の次元で捉えるべきだと主張する。

● 戦争の「不可能性」(西谷修) **グローバリズム論**

二十世紀の戦争がもたらした戦争の「世界化」の内実を解き明かし、これから人類が歩むべき道を示唆する。「である」と「する」と(丸山真男) **近代化論**

「である」「価値」と「する」「価値」という概念から、近代社会を問い直す、戦後の思想界をリードした政治学者による論考。

八 小説

● こころ(夏目漱石)

人と人との間に横たわる闇と孤独、エゴイズムを鋭く見つめた近代の代表的小説。

批評のまなざし

● ネット上の発言の劣化について(内田樹) **メディア論**

マスメディアが情報を選別しない現代において、情報の価値を検証し認識することの重要性を述べる。

● 空白の意味(原研哉) **芸術論**

日本人が空白を、何も無いのではなく何かを隠されていると捉えて活用してきたことを絵画を例に述べる。

● 科学の現在を問う(村上陽一郎) **科学論**

脳死判定による臓器移植を認める法律に対して筆者が感じた違和の理由と、その根元を考察する。

2部

一 評論

● むくみ(鷺田清一) **身体論**

他者と「つながってほしい」という感情の裏には、自らの存在を認めてほしいという願いがあることを論じる。

● 身体像の近代化(野村雅一) **身体論**

「身体」がどのように管理されてきたのか。近代日本歩みを「身体」から捉え直す。

● 身体(の)疎外(黒崎政男) **身体論**

電脳化した現代社会において疎外されてきた「身体」が、逆に「私」をのけものにし始める。バイオメトリックス認証から現代の「私」を考える。

● 抗争する人間(今村仁司) **倫理論**

相手を上回ろうとする欲望が虚栄心となり、ときとして精神的・物理的な暴力となる危険性を指摘する。虚ろなまなざし(岡真理) **グローバリズム論**

難民の子どもに自己同一化することで自分たちの加害者性を隠蔽するというヒューマニズムの陥穽を突く。

● ある(共生)の経験から(石原吉郎) **社会論**

共生とは偶然や便宜的な形ではなく生存に関わる切迫感から始まることを、シベリア抑留の体験から述べる。

● 陰翳礼賛(谷崎潤一郎) **文化論**

日本の食器や食材の美しさは、闇と密接な結びつきがあることを指摘する、日本文化論の古典的作品。

● 日本文化の雑種性(加藤周一) **文化論**

今日の日本文化は、深い部分で分ちがたく西洋文化と結びついていることを、さまざまな具体例に即して述べる。

● 無常といふこと(小林秀雄) **文化論**

この世の「無常」と「常なるもの」について論じる、近代を代表する評論家の論考。

● 現代日本の開化(夏目漱石) **近代化論**

明治維新以来の日本社会の動きを「外発的開化」と批判する講演記録。

二 小説

● 舞姫(森鷗外)

ベルリンの街を舞台に、若きエリート太田豊太郎と踊り子エリスの出会いと別れが描かれる。

● 檸檬(梶井基次郎)

「えたいの知れない不吉な塊」によって鬱屈した「私」は、檸檬を買ったのをきっかけに、ある行動を起こす。

● 美神(三島由紀夫)

死を目前にした古代彫刻の権威R博士が語る、自ら発掘したギリシア神話の女神アフロディテの像に関する真実とその結末とは。

● 鞆(安部公房)

持ち主の行き先を決めてしまふ鞆をとおして人間の自由について考えさせる、不思議なタッチの現代小説。

● 涙の贈り物(レベッカブラウン／柴田元幸訳)

ホスピスへの入院を受け入れられない末期のHIV患者とそれにかかわるケースワーカーの姿をとおして人間の尊厳を痛切に描く、現代アメリカ小説。

三 詩歌

● ギリシア的抒情詩(西脇順三郎)

「神の生誕の日」を祝福する輝かしいイメージの「天気」と、反復と視覚的なイメージが特徴的な「雨」とを組み合わせ、詩的世界を味わう。

● 湖水(金子光晴)

湖に逆さまに映る世界とそこに表れる「僕」の心を、静謐な筆致で描く。

● 時計(萩原朔太郎)

「古いさびしい空家」で「夢」や「まどろみ」に沈む「私」を錆びついた柱時計の音が呼び覚ます。擬音語が印象的な一編。

● 鞆轡は——俳句十六句

三橋鷹女から田中裕明まで現代俳人十六人の秀句を、「鞆轡」「鳥」「海」「戦争」「燕」「広島」「咳」「こども」の八つの題に沿って選んだアンソロジー。

現代評論を読む

● 累積的社会・停滞的社会

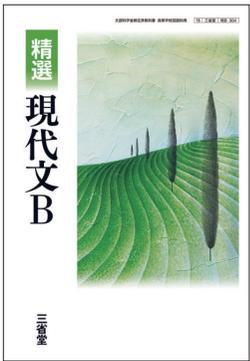
(レヴィイストロス／川田順造 渡辺公三訳) **文化論**
近代社会を生み出し、現代に至る産業文明を発展させてきた西欧社会の価値観もまた、一つの特異な世界観であることを解き明かす。

● 写真に何が可能か(多木浩二) **芸術論**

人間と機械との混成系である「写真」には、既存の概念を破壊し、偶然性という世界の不気味さに立ち会わせる衝動がある。人間と世界との直接的なつながりを回復させ、新鮮な思想や言葉を呼び覚ます「写真」の可能性について論じる。

● コミュニケーションに未来はあるか(大澤真幸) **メディア論**

メディアを言語・社会権力などにわたる現代社会の広範なテーマとして捉え、コミュニケーションの未来を重層的に考察する。



評論 小説

◎さまざまなジャンルから選び抜かれた18本(第一部8本・第二部10本)のラインナップに加え、「批評のまなざし」6本(第一部3本・第二部3本)を収録しました。
◎近代は定番教材、現代は教科書での実績を重視した教材9本(第一部5本・第二部4本)をバランスよく配列しました。
◎短い評論文と記述式の課題とで構成。小論文やAO入試対策にも役立ちます。

精選現代文B

第一部

一 随想

最初のペンギン
わかりやすいはわかりにくい？

茂木健一郎
鷺田清一

二 小説(一)

山月記
ランドセル

中島敦
角田光代

三 評論(一)

ミロのヴィーナス
未来世代への責任

清岡卓行
岩井克人

恐怖とは何か

岸田秀

現代評論を読むために① 環境

↓40ページ

四 詩歌

二十億光年の孤独
パンの話

谷川俊太郎
吉原幸子

永訣の朝

宮沢賢治

木に花咲き——短歌十五首

若林幹夫

五 評論(二)

メディアと歴史
木の葉と光

日高敏隆
隈研吾

コンフリクトの時代

現代評論を読むために② メディア・情報

精選現代文B

第二部

一 評論(二)

「ブーボー」と「マンマ」の記号論
サフルとフレル

池上嘉彦
長嶋善郎

二 小説(二)

靴の話

大岡昇平
安部公房

三 評論(二)

身体への疎外
判断停止の快感

黒崎政男
大西赤人

病と科学

柳澤桂子

現代評論を読むために⑤ 生命・身体

四 詩歌

樹下の二人
死んだ男

高村光太郎
鮎川信夫

小諸なる古城のほとり

島崎藤村

渡り鳥——俳句十五句

高村光太郎

広がる言葉の世界——名訳

高村光太郎

五 評論(三)

「私」消え、止まらぬ連鎖
南の貧困／北の貧困

高村薫
見田宗介

虚ろなまなざし

岡真理

現代評論を読むために⑥ グローバリゼーション

森鷗外

六 小説(二)

舞姫
飛行機で眠るのは難しい

小川洋子
加藤周一

日本文化の雑種性

小林秀雄

無常といふこと

小林秀雄

現代評論を読むために⑦ 芸術・文化

批評のまなざし

↓40ページ

ネット上の発言の劣化について
カタカナ語は享受すべきか
科学の現在を問う

内田樹
川口良・角田史幸
村上陽一郎

表現と実用の文章

↓41ページ

情報の読み方・扱い方
報道の文章
調査から発表へ
脚本の世界——創作

付録

読書の扉／近現代文学史年表

批評のまなざし

↓40ページ

木を伐る人／植える人
「選べる社会」の難しさ
空白の意味

赤坂憲雄
松田美佐
原研哉

六 小説(一)

蠅
レキシントンの幽霊

横光利一
村上春樹

七 評論(三)

戦争の「不可能性」
「The Age of the Automobile」

西谷修
丸山真男

現代評論を読むために③ 近代

八 小説(三)

こころ

夏目漱石

精選現代文B 教材の内容

第一部

一 随想

- 最初のペンギン(茂木健二郎) **思考論**
人は不確実な世界にどう立ち向かっているのか、直観と感情をキーワードに考察する。
- わかりやすいはわかりにくい?(鷺田清一) **思考論**
理解できない問題に対して、単純な正解を求めるのではなく、考え抜いて「正確に対処する」大切さを説く。

二 小説(一)

- 山月記(中島敦)
若くして才能を発揮し、詩作にふけた李徴を待っていたのは、数奇な運命だった。
- ランドセル(角田光代)
子どもの時は「全財産」が入ったのに今は「二泊旅行に必要なもの」も入らないランドセルに、「私」は救われる。

三 評論(一)

- ミロのヴィーナス(清岡卓行) **芸術論**
「ミロのヴィーナス」の失われた両腕に美を見いだし、人間存在のありようを洞察した論考。
- 未来世代への責任(若井克人) **環境論**
「京都議定書」問題で露呈した環境問題の本質を、経済学者が資本主義の原理から説き起す。
- 恐怖とは何か(岸田秀) **心理論**
恐怖とは何か、心理学者が人間の自我の構造から、そのメカニズムを明らかにする。

四 詩歌

- 二十億光年の孤独(谷川俊太郎)
地球と火星の関係から宇宙の果てまで広がる「みんな」の孤独と「もとめ合う」心。詩人の鮮烈なデビュー作。
- パンの話(吉原幸子)
「パン」と「バラ」をとおして、生と芸術の境界線を生きる「わたし」の決意を表した作品。
- 永訣の朝(宮沢賢治)
「いもうと」が死ぬ前に「わたくし」に頼んだことと、それが意味することは。若くして死んだ妹に送る挽歌。
- 木に花咲き——短歌十五首
窪田空穂から穂村弘まで近現代の歌人十五人の秀歌を「愛恋」「自然」「いのち」「戦争」「学園」の五つのジャンルに沿って選んだアンソロジー。

五 評論(二)

- メディアと歴史(若林幹夫) **メディア論**
人間はメディアという「他者」を手に入れることで何を得て代わりに何を生み出したのかを追う。
- 木の葉と光(日高敏隆) **環境論**
個々の動物が独自に作り出す世界Ⅱ「環世界」という概念で、自然環境を捉え直す。
- コンクリートの時代(隈研吾) **文化論**
コンクリートという建築素材をとおして、二十世紀の人々が見た夢と希望、そしてその結末を鋭く論じる。

六 小説(二)

- 蠅(横光利一)
真夏の馬車の停車場に集まる人々の人間模様を二匹の蠅の姿と対比させて描く。近代小説の新境地を拓いた作品。
- レキシントンの幽霊(村上春樹)
「ぼく」がアメリカのレキシントンの古い屋敷で「幽霊」に出会った体験を語る。現代日本を代表する作家の小編。

七 評論(三)

- 戦争の不可能性(西谷修) **グローバリズム論**
二十世紀の戦争がもたらした戦争の「世界化」の内実を解き明かし、これから人類が歩むべき道を示唆する。
- 「びんごんごん」(丸山真男) **近代化論**
「である」「価値と」「する」「価値」という概念から、近代社会を問い直す、戦後の思想界をリードした政治学者による論考。

八 小説(三)

- こころ(夏目漱石)
人と人との間に横たわる闇と孤独、エゴイズムを鋭く見つけた近代の代表的小説。
- 批評のまなざし
木を伐る人／植える人(赤坂憲雄) **環境論**
木を「伐る」と「植える」ことは人にとって対立ではなく共存する事柄だったことを、実証的な研究の成果から明らかにする。

第二部

一 評論(二)

- 「二選べる社会」の難しさ(松田美佐) **メディア論**
現代において私たちは、何かを選択する際に自分の経験や嗜好にとらわれがちであり、それを自覚することの必要性を論じる。
- 空白の意味(原研哉) **芸術論**
日本人が空白を、何も無いのではなく何かが見え隠れていると捉えて活用してきたことを絵画を例に述べる。

二 小説(一)

- 「ブルーボー」と「マンマン」の記号論(池上嘉彦) **言語論**
言語という記号を用いて世界を意味づけることは、未知のものを自分の世界に取り込む営みであると説く。
- サワルとフレル(長嶋善郎) **言語論**
似た意味をもつ言葉の違いについて、多種多様な文例をあげること、感覚ではなく具体的に説明する。

三 評論(三)

- 靴の話(大岡昇平)
第二次大戦下の激戦地で戦死者が残した新品の靴を取り合う兵士たち。「私」が見た戦争の真実とは。
- 靴(安部公房)
持ち主の行き先を決めてしまう靴をとおして人間の自由について考えさせる、不思議なタッチの現代小説。

四 評論(四)

- 身体への疎外(黒崎政男) **身体論**
電脳化した現代社会において疎外されてきた「身体」が、逆に「私」のけものし始める。バイオメトリックス認証から現代の「私」を考える。

四 詩歌

- 判断停止の快感(大西赤人) **社会論**
「きれいな清潔」という言葉がもつ判断停止の誘惑と、そこに潜む観念性や二元的な思考への可能性を指摘する。
- 病と科学(柳澤桂子) **生命論**
病気の治療において、科学は多くの利益をもたらしたが、病氣から人間を排除した。科学に全てをゆだね、人間が病を受けとめる力を失っていくことの危うさを論じる。

五 評論(二)

- 樹下の二人(高村光太郎)
みちのくに広がる大自然の前に、恋人とそのふるさとを詠う恋愛詩。
- 死んだ男(鮎川信夫)
戦死した友人を悼み、若き日の交流と自らの詩に對する決意を表す追悼詩。
- 小諸なる古城のほとり(島崎藤村)
春まだ浅い新修を舞台に、孤独な「遊子」の憂愁を詠った文語定型詩。
- 渡り鳥——俳句十五句
高浜虚子から田中裕明まで近現代の俳人十五人の秀句を、「鳥」「虫」「旅」「戦争」「野菜」の五つの題に沿って選んだアンソロジー。

六 小説(一)

- 虚ろなまなざし(岡真理) **グローバリズム論**
難民の子どもに自己同一化することで自分たちの加害性を隠蔽するというヒューマンイズムの陥穽を突く。
- 六 小説(二)
舞姫(森鷗外)
ベルリンの街を舞台に、若きエリート太田豊太郎と踊り子エリスの出会いと別れが描かれる。
- 飛行機で眠るのは難しい(小川洋子)
飛行機で偶然隣り合わせた男が語る不思議な老女の死の物語が、「わたし」を眠りへと導く。

七 評論(四)

- 日本文化の雑種性(加藤周一) **文化論**
今日の日本文化は、深い部分で分ちがたく西洋文化と結びついていることを、さまざま具体的な例に則して述べる。
- 無常ということ(小林秀雄) **文化論**
この世の「無常」と「常なるもの」について論じる、近代を代表する評論家の論考。

八 評論(五)

- ネット上の発言の劣化について(内田樹) **メディア論**
マスメディアが情報を選別しない現代にあつて、情報の価値を検証し認識することの重要性を述べる。
- カタカナ語は享受すべきか(川田良、角田史幸) **言語論**
カタカナ語の増加を日本語の乱れとだけ捉えず、多様な他者を理解することにつながるという視点を示す。
- 科学の現在を問う(村上陽一郎) **科学論**
脳死判定による臓器移植を認める法律に対して筆者が感じた違和の理由と、その根元を考察する。

九 批評のまなざし

- ネット上の発言の劣化について(内田樹) **メディア論**
マスメディアが情報を選別しない現代にあつて、情報の価値を検証し認識することの重要性を述べる。
- カタカナ語は享受すべきか(川田良、角田史幸) **言語論**
カタカナ語の増加を日本語の乱れとだけ捉えず、多様な他者を理解することにつながるという視点を示す。
- 科学の現在を問う(村上陽一郎) **科学論**
脳死判定による臓器移植を認める法律に対して筆者が感じた違和の理由と、その根元を考察する。

「現代評論を読むために」

現代評論を1 環境 environment

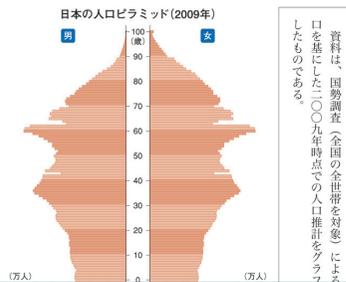
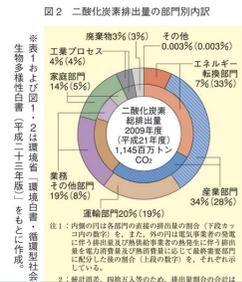
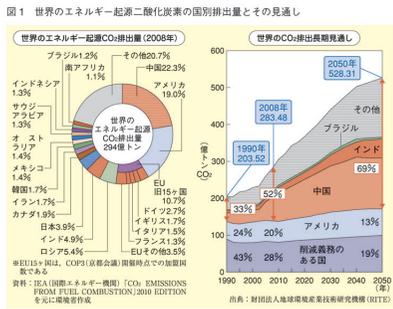
私たちの日々の生活を振り返ると、環境問題が身近な存在として、私たちの生活に深く関わっていることがよく見えてくる。...

現代評論を読むにあたって必読のコラム 「近代」「環境」「言語」など、現代評論の主要なテーマについて、教材文とゆるやかに関連しながら解説したコラムです。...

「表現と実用の文章」

表現情報の読み方扱い方

報告文や解説文では、アンケート調査や統計などの数値データをグラフや表などに示し、視覚資料が用いられることが多い。こうした情報は、日常生活においてさまざまなメディアを通して私たちがよく目にするものである。...



読解力から表現力へ

資料などから情報を的確に読み取ったり、それを発信したりする力をつける教材です。課題解決型の小論文やA〇入試、面接対策としても使えます。

「批評のまなざし」

ネット上の発言の劣化について

かつてマスメディアが言論の場を支配していた時代があった。マスメディアが言論の場を支配していた時代があった。...

現代評論を読むにあたって必読のコラム 「近代」「環境」「言語」など、現代評論の主要なテーマについて、教材文とゆるやかに関連しながら解説したコラムです。...

学習を支える工夫

舞姫

石炭をばや積み集めて、中等室の奥のほうにはいと静かに、熾熱の光の射れがまじりも徒なり。...

レキシントンの幽霊

これは数年前に実際に起こったことである。人物の名前だけは変えたけれど、それ以外は事実だ。...

わかりやすい注釈

定番教材ながら語句がネックとなる「舞姫」では、通常の教材より欄を広くして注釈を充実させ、用語でのつまづきを軽減して深い読解へ導く配慮をしています。

小論文対策に最適の評論教材

短い評論文と記述式の課題とで構成された小教材です。文章を理解し、まとめ、論理的に述べる力を養います。小論文やA〇入試の対策にも役立ちます。



明解現代文B
I部

◎ 社会生活に必要な読解力をしっかりと身につけられる教材を厳選しました。
◎ 現代の人気作家の作品を中心に配列。読んでおきたい近代の定番教材もおさえました。
◎ 読むことの楽しさ、味わい深さを感じられる作品をそろえました。
◎ 社会に出るために、そして出たときにすぐに役立つ知識と技能を培います。
◎ 読解の手がかりとして、表現活動の補助として、さまざまな場面で役立つ資料を掲載しています。

明解現代文B

I部

- 1 随想一 待つこといごと 角田光代
- 2 小説一 水かまきり 川上弘美
- 3 評論一 神様搜索隊 大崎善生
- 4 随想二 コンコルドの誤り 長谷川真理子
- 5 詩 想像する力 松沢哲郎
- 6 随想三 手紙とメール ↓47ページ
- 7 小説二 汚れつちまつた悲しみに…… 中原中也
- 8 随想四 耳の秋 新川和江
- 9 随想五 未確認飛行物体 入沢康夫
- 10 随想六 ただ一枚の絵葉書 短歌十二首 佐藤雅彦
- 11 随想七 前の駅出ました 酒井順子
- 12 随想八 ズルい言葉「してあげる」 ナイン 井上ひさし
- 13 随想九 芋ようかん 内海隆一郎
- 14 随想十 「自由」のはき違え 鷺田清一
- 15 随想十一 「知る」といこと 加藤周一
- 16 随想十二 状況と人間 十五歳の東京大空襲 半藤一利
- 17 随想十三 書く 文集をまとめよう

日本語ストレッチ

↓46ページ

- 1 可能を表す表現① / 2 可能を表す表現②
- 3 使役を表す表現 / 4 副詞① / 5 副詞②
- 6 接続の表現① / 7 接続の表現②
- 8 助詞と文の意味 / 9 声で表現する

ブックガイド

1 ~ 6

明解現代文B

II部

- 1 随想一 春の小川の思い出 さくらももこ
- 2 小説二 誰の目にもふれないことば 小川洋子
- 3 小説三 山椒魚 井伏鱒二
- 4 評論二 ピクニックの準備 恩田陸
- 5 評論三 「宇宙人」地球以外に生命体は存在するか 渡部潤一
- 6 随想一 ホンモノのおカネの作り方 岩井克人
- 7 随想二 自己PRをしよう ↓47ページ
- 8 随想三 話す・聞く ヌメカサゴ 吉原幸子
- 9 随想四 詩 ヌメカサゴ 宮澤賢治
- 10 随想五 永訣の朝 吉原幸子
- 11 随想六 排句 ノートの先に海 俳句十二句 宮澤賢治
- 12 随想七 排句 最初のペンギン 茂木健二郎
- 13 随想八 なまけものコンプレックス 別役実
- 14 随想九 山月記 中島敦
- 15 随想十 破船 吉村昭
- 16 随想十一 「自由」のはき違え 鷺田清一
- 17 随想十二 「知る」といこと 加藤周一
- 18 随想十三 状況と人間 十五歳の東京大空襲 半藤一利
- 19 随想十四 書く 文集をまとめよう

日本語ストレッチ

↓46ページ

- 1 主述の照応を整える / 2 修飾語の係り受けを整える
- 3 長い文をわかりやすくする / 4 さまざまな文を整える
- 5 敬語① / 6 敬語② / 7 敬語③ / 8 敬語④
- 9 敬語⑤ / 10 敬語⑥

ブックガイド

1 ~ 3

資料編

手紙の書き方 / 情報の収集と発信 / 話し合いの方法
敬語のまとめ / 近現代文学史年表 / 学校系統図 / 服装
生活調度品 / 文学を訪ねて / 作品に登場する動植物

↓47ページ

明解現代文B 教材の内容

I部

1 随想一

● 待つということ(角田光代) **社会論**

不安げなアジア人の女性を駅のホームに残してきた私。その胸には小さな後悔が芽生え、タイを旅行した時のある思い出が浮かびあがってきた。

● 春内山節 **身体論**

春になると豊かさや安心を感じるのはなぜだろう。この素朴な疑問を手がかりに、人間と自然の関わり方について考える。

2 小説一

● 水かまきり(川上弘美)

昔なじみのケン坊と一緒に川辺を散歩する「私」は、以前と違うケン坊の様子にとまどっていた。散歩の途中で、ケン坊はたらいの中に一匹の水かまきりを見つけた。

● 神様捜索隊(天崎善生)

年二回催される町内会の探し物ツアーは、成果らしい成果をあげないが、毎回盛況である。「僕」の妻、陽子は熱心な参加者だが、今回のツアーの探し物は「神様」だった。

3 評論一

● コンコルドの誤り(長谷川真理子) **思考論**

英仏両国が大量投資した超音速機コンコルドの開発計画。その挫折には、人間が犯しがちな、思考の誤りが潜んでいると指摘する。

● 想像する力(松沢哲郎) **思考論**

人間とは何か。チンパンジーと人間とを比べることで、「想像する力」をもつということが人間の特徴であると説く。

5 詩

● 汚れつちまつた悲しみに……(中原中也)

「汚れつちまつた悲しみの繰り返しの中に自らの苦悩を描く文語定型詩。

● 耳の秋(新川和江)

静寂の中に聞こえる虫の音から宇宙の深遠さへと思いをはせる。身近な事象から壮大な世界が展開される。

● 未確認飛行物体(入沢康夫)

夜ごと空を飛ぶ葉岳はどこへ何をしに行くのか。ナンセンスなおもしろさに心が温かくなる一編。

6 短歌

● ただ一枚の絵葉書 短歌十一首

与謝野晶子から黒瀬珂瀾まで近現代の歌人十二人の秀歌を、「恋」「傘」「髪」「遠くへ」の五つのジャンルに沿って選んだアンソロジー。

7 随想二

● 前の駅出ました(佐藤雅彦) **心理論**

「前の駅出ました」という表示が出たとたん、瞬間にイライラが消えた体験から、筆者は「視点の切り替え」の快感と重要性を発見する。

● ズルい言葉してあげる(酒井順子) **言語論**

物に対して「してあげる」という言葉を使う違和感から、丁寧な言葉に隠された人間のエゴを考察する。

8 小説二

● ナイン(井上ひさし)

新道少年野球団が少年野球大会で準優勝してから、約二十年。少年たちのその後を描く。

● 芋ようかん(内海隆一郎)

「おばあちゃん」の作る芋ようかんは、甘菓堂の名物だ。ところが店の後継ぎとなった「息子」は製造をやめようと言い出した。採算が取れないというのだが……。

9 評論二

● 持たないという豊かさ(原研哉) **文化論**

戦後の欠乏から、いつしか日本人は物を過剰に所有することを豊かさだと思いついてしまった。物を味わい、その美を楽しむ真の豊かさを説く。

● 「自己」について考えること(竹田青嗣) **思考論**

人は「自己ルール」を形成し、それを他者と交換することで両者の違いを理解する。「自己」を考える方法と意味をわかりやすく論じる。

10 小説三

● こころ(夏目漱石)

人と人との間に横たわる闇と孤独、エゴイズムを鋭く見つけた近代の代表的小説。

II部

1 随想一

● 春の小川の思い出(さくらももこ) **成長論**

幼い頃はずっとたまちゃんと一緒にだった。しかし高校三年の夏、別々の道を進む時が来たことを悟る。「ちびまる子ちゃん」の作者が少女の日の思い出を振り返る。

● 誰の目にもふれないところで(小川洋子) **小説論**

私たちは多くの人に支えられて何かを成し遂げている。そのことに気づいた時、自分も誰の目にもふれないところで悪戦苦闘しなければならぬと決意する。

2 小説一

● 山椒魚(井伏鱒二)

岩屋に閉じ込められてしまった山椒魚。何度も脱出を試みるが徒勞に終わる。外の世界への夢を断たれた山椒魚の心は少しずつ変化していく。

● ピクニックの準備(恩田陸)

秘密を抱えた貴子と融。三年生で偶然同じクラスになった二人は、それぞれの思いを抱えたまま、高校最後の行事「ピクニック」の前夜を迎えた。

3 評論一

● 宇宙人地球以外に生命体は存在するか(渡部潤二) **科学論**

「宇宙人」は存在するのか。長年天文台に勤務して研究を続けた筆者が、宇宙科学の研究成果をふまえ、その可能性を論じる。

5 詩

● ユメカサゴ(吉原幸子)

「ユメ」という名をつけられた魚。その姿を見て作者が考え、感じたことは。

● 永訣の朝(宮澤賢治)

「いもうと」が死ぬ前に「わたくし」に頼んだことと、それが意味することは。若くして死んだ妹に送る挽歌。

6 俳句

● ノートの先に海 俳句十二句

尾崎放哉から山口優夢まで近現代の俳人十二人の秀句を、「やさしさ」「子ども」「若き日」「空を見上げて」の四つの題に沿って選んだアンソロジー。

7 随想二

● 最初のペンギン(茂木健一郎) **思考論**

人は不確実な世界にどう立ち向かっているのか、直観と感情をキーワードに考察する。

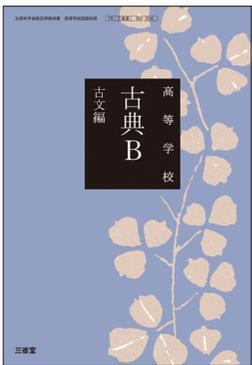
● なまけものコンプレックス(別役実) **文化論**

いつも木にぶら下がって世界を逆さまに見ているなまけもののお姿とおして、人間の文明の価値を改めて問う。

10 状況と人間

● 十五歳の東京大空襲(半藤一利) **ノンフィクション**

一九四五年三月十日午前〇時八分アメリカ軍の爆撃機B29の大編隊三三五機は、東京の下町に史上最大規模の無差別爆撃を開始した。戦争の真の恐ろしさを知り、平和を守るためには「自分たちの日常生活から、戦争につながるようなことを、日々駆逐する、その他にいい方法はない」ことを学んだ筆者の記録。



古典 漢文 コラム

◎第一部に主要な作品をひと通りそろえ、第二部には「枕草子」「源氏物語」「大鏡」及び評論教材を圧倒的な質量で収録しています。

◎各ジャンルの作品を豊富にそろえました。漢文を読むおもしろさを大切にするとともに、大学入試にも対応できるラインナップです。

◎古典の知識を広げ、深められるよう、作品の背景を解説したコラム「古典の扉」を随所に付けています。

高等学校古典B 古文編

高等学校古典B 漢文編

【第一部】

一 随筆(一)

枕草子(清少納言)
ありがたきもの／すさまじきもの
中納言参り給ひて／雪のいと高う降りたるを

二 物語(一)

竹取物語 かぐや姫の昇天
伊勢物語 初冠／月やあらぬ／狩りの使ひ／小野の雪
(参考) つひにゆく道

三 随筆(二)

大和物語 姨捨
堤中納言物語 虫めづる姫君
徒然草(兼好法師)
あだし野の露消ゆる時なく／相模守時頼の母は

四 説話

方丈記(鴨長明) ゆく河の流れ／養和の飢饉／日野山の閑居
古典の扉 隠者の文学

五 物語(二)

源氏物語(紫式部) 光源氏の誕生／藤壺の入内／北山の垣間見
大鏡 雲林院の菩提講／花山院の出家／弓争ひ
蜻蛉日記(藤原道綱母) うつろひたる菊／鷹を放つ

六 日記

和泉式部日記(和泉式部) 夢よりもはかなき世の中を
紫式部日記(紫式部) 秋のけはひ／和泉式部と清少納言
更級日記(菅原孝標女) あこがれ／源氏の五十余巻

七 軍記

平家物語 忠度の都落ち／能登殿の最期

八 和歌と連歌

和歌十六首
水無瀬三吟百韻
近世俳諧

九 近世の文学

古典の扉 和歌から連歌へ、連歌から俳諧へ
笈の小文(松尾芭蕉)
西鶴諸国ばなし(井原西鶴) 大晦日は合はぬ算用

【第二部】

一 随筆

枕草子(清少納言)
木の花は／かたはらいたきもの／二月つごもりごろに
九月ばかり／頭の弁の、職に参り給ひて
殿などのおはしまさでのち／村上の前帝の御時に
宮に初めて参りたるころ／大納言殿参り給ひて
この草子、目に見え心に思ふことを

二 物語(一)

源氏物語(紫式部) ↓50ページ
高麗人の観相／廢院の怪／藤壺の里下がり／車争ひ
心づくしの秋風／明石の君の苦惱／明石の姫君の入内
女三の宮の降嫁／萩の上露／形見の文／小野の里訪問／夢の浮橋

三 大鏡

東風吹かば／宣耀殿の女御／最後の除目／三舟の才
(比へて読んでみよう)伊周・隆家／肝試し／道長と詮子／鶯宿梅

四 評論

古今和歌集仮名序(紀貫之) やまと歌は
俊頼髓脳(源俊賴) 鷹狩りの歌 ↓50ページ
無名草子 清少納言／紫式部
無名抄(鴨長明) 深草の里
毎月抄(藤原定家) 心と詞
正徹物語(正徹) 一字の違ひ／亡き人恋ふる
風姿花伝(世阿弥) 秘すれば花
去来抄(向井去来) 行く春を／岩鼻や
難波土産 虚美皮膜の間
玉勝間(本居宣長) 師の説と違へること多く
源氏物語玉の小櫛(本居宣長) ものあはれ

付録

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

資料

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

付録

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

資料

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

付録

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

資料

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

付録

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

資料

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

付録

古典文法要覧／古典文学史年表／日本の古典芸能
旧国名・都道府県名対照図ほか／装束／住居・調度／陰暦
古時刻・古方位ほか

資料

【第一部】

一 小説

漱石枕流(世説新語)／紀昌貫虱(蒙求)
孟母断機(列女伝)／畏饅頭(笑府)
不顧後患(説苑)／王昭君(西京雜記)

二 漢詩(近体詩)

鹿柴(王維)／秋浦歌(李白)／宿建德江(孟浩然)
早發白帝城(李白)／芙蓉樓送辛漸(王昌齡)／楓橋夜泊(張繼)
送杜少府之任蜀州(王勃)／春夜喜雨(杜甫)
八月十五日夜、禁中獨直、對月憶元九(白居易)／遊山西村(陸游)

三 史伝

史記(司馬遷) 鴻門之會／項王暴挙／四面楚歌
項王最期(参考)題烏江亭

四 文章

漁父辞(屈原)
古典の扉 漁師と隠者 ↓50ページ
春夜宴桃李園序(李白)
愛蓮説(周敦頤)
送薛存義之任序(柳宗元)

五 思想

儒家・道家の思想
論語 子曰、「富与貴／子曰、「道之以政／子貢問政／長沮 桀溺
孟子 無恒産而有恒心者／不忍人之心
荀子 人之性悪
老子 大道廢、有仁義／小国寡民
莊子 曳尾於塗中／渾沌

六 小説

魚服記(李復言)／人虎伝(李景亮) ↓51ページ

七 漢詩文

冬夜読書(普茶山)／泊天草洋(頼山陽)
桂林莊雜詠示諸生(広瀬淡窓)／款冬一枝(飯田黙叟)
送夏目漱石之伊予(正岡子規)／題自画(夏目漱石)
航西日記(森鷗外)

【第二部】

一 史伝(一)

三国志の世界 ↓51ページ
乱世之姦雄(十八史略)／左右莫敢近者(世説新語)
髀肉皆消(十八史略)／三往、乃見(三国志)
天下三分之計(三国志)／進遇於赤壁(十八史略)

二 漢詩(古体詩)

古典の扉 日本人と三国志
桃夭／陟岵／行行重行行／生年不滿百／秋風辞(漢武帝)
飲酒(陶潜)／把酒問月(李白)／兵車行(杜甫)／長恨歌(白居易)

三 小説

人面桃花(孟棻)／杜子春伝(李復言) ↓51ページ
史記(司馬遷) ↓51ページ
伯夷 天道是邪非邪
廉頗と藺相如 完璧歸趙／渾池之會／刎頸之交
荆軻 風蕭蕭兮易水寒／函窮而匕首見
劉邦 大丈夫当如此也／大風起兮雲飛揚

四 思想

思想と寓話
孟子 何必曰利／性猶湍水也
荀子 青取之於藍、而青於藍
老子 天下莫柔弱於水
莊子 夢為胡蝶／北冥有魚
列子 愚公移山
韓非子 聖人不期修古
墨子 非攻
売油翁(歐陽脩)

五 文章

古典の扉 諸子の思想と寓話
捕蛇者説(柳宗元)／赤壁賦(蘇軾)／師説(韓愈)

付録

漢文の基本形式／中国文学の風景
中国参考地図／春秋時代要図・戦国時代要図／漢文参考略年表

資料

漢文の基本形式／中国文学の風景
中国参考地図／春秋時代要図・戦国時代要図／漢文参考略年表

付録

俊頼髓腦
源俊頼
鷹狩りの歌

源俊頼
鷹狩りの歌
鷹狩りの歌
鷹狩りの歌

源氏物語
紫式部
高麗人の観相

高麗人の観相
高麗人の観相
高麗人の観相
高麗人の観相

充実の古文教材

作品数・教材数ともに十分な量がそろっています。なかでも「源氏物語」「枕草子」「大鏡」及び評論教材は特に充実を図っています。

源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語

源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語

源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語

源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語

古典の扉
古典の扉
古典の扉
古典の扉

漁師と隠者

漁師と隠者
漁師と隠者
漁師と隠者
漁師と隠者

古典への理解を深める「古典の扉」

作品が書かれた時代背景や古人のもの見方・考え方にふれることができ、古典への理解がさらに深まります。

古典の扉
古典の扉
古典の扉
古典の扉

平安時代の文学—女性と仮名

平安時代の文学—女性と仮名
平安時代の文学—女性と仮名
平安時代の文学—女性と仮名
平安時代の文学—女性と仮名

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記—伯夷

史記—伯夷
史記—伯夷
史記—伯夷
史記—伯夷

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷
史記 伯夷

史記—伯夷

史記—伯夷
史記—伯夷
史記—伯夷
史記—伯夷

広がりと深まりの漢文教材

テーマに基づいて幅広い作品から教材を採録するとともに、一つの作品を掘り下げて扱うなど、漢文のおもしろさを存分に味わいながら、理解を深めることができます。

「三国志」の世界
「三国志」の世界
「三国志」の世界
「三国志」の世界

「三国志」の世界

「三国志」の世界
「三国志」の世界
「三国志」の世界
「三国志」の世界



人虎伝
人虎伝
人虎伝
人虎伝

人虎伝

人虎伝
人虎伝
人虎伝
人虎伝

漢文と日本文学とのつながり

中国の文学が日本の文学に与えた影響に、具体的な教材を通してふれることで、それぞれの文化に親しみ、理解を深めようとする気持ちを養います。

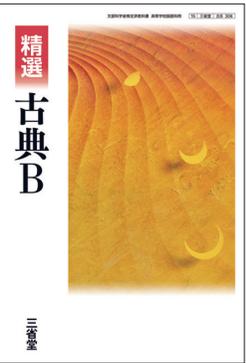
杜子春伝
杜子春伝
杜子春伝
杜子春伝

杜子春伝

杜子春伝
杜子春伝
杜子春伝
杜子春伝

漢文と日本文学とのつながり

中国の文学が日本の文学に与えた影響に、具体的な教材を通してふれることで、それぞれの文化に親しみ、理解を深めようとする気持ちを養います。



古典 漢文 コラム

◎「古典B」の学習でふれた作品をひと通りそろえ、オーソドックスかつスタンダードなラインナップを目指しました。古典の教養が身につくとともに、大学入試に対応できる力も養うことができます。

◎史伝・思想・文章などの各ジャンルから、定番教材を中心に豊富な教材を配置しました。漢文を読むおもしろさを大切にしながら、漢文を読む力も確実に身につけることができます。

◎古典の知識を広げ、深められるよう、作品の背景を解説した「古典の扉」と、現代とのつながりをより身近に感じられる「今に生きる古典」の二種類のコラムを掲載しています。

精選古典B

古文編

【第一部】

一 説話

十訓抄 博雅の三位と鬼の笛
宇治拾遺物語 小野篁、広才のこと
古今著聞集 大江山

二 随筆(一)

徒然草(兼好法師) ↓54ページ

あだし野の露消ゆる時なく／悲田院の堯連上人は
家居のつきづきしく／五月五日、賀茂の競べ馬を／世に従はん人は
方丈記(鴨長明) ゆく河の流れ／養和の飢饉(参考)日野山の閑居

古典の扉 隠者の文学

三 物語(一)

竹取物語 かぐや姫の昇天
伊勢物語

初冠／月やあらぬ／行く螢／小野の雪(参考)つひにゆく道

四 随筆(二)

大和物語 姨捨
枕草子(清少納言)

春はあけぼの／すさまじきもの
中納言参り給ひて／雪のいと高う降りたるを

五 物語(二)

源氏物語(紫式部)

光源氏の誕生「桐壺」／藤壺の入内「桐壺」／北山の垣間見「若紫」

大鏡 花山院の出家／弓争ひ(参考)雲林院の菩提講
古典の扉 「声」を聞く——物語の歴史 ↓55ページ

六 日記

更級日記(菅原孝標女) あこがれ／源氏の五十余巻 ↓54ページ
建礼門院右京大夫集(建礼門院右京大夫)
なべて世のはかなきことを

七 軍記

平家物語 忠度の都落ち／能登殿の最期

八 伝承 九 和歌 十 俳諧と俳文

今に生きる古典 平家の光と影をたどる
古事記 倭建の東征
和歌十六首
近世俳諧

野ざらし紀行(松尾芭蕉)

【第二部】

一 随筆

枕草子(清少納言)
ありがたきもの／木の花は
二月つごもりごろに／大納言殿参り給ひて

二 物語(一)

源氏物語(紫式部)
廢院の怪「夕顔」／心づくしの秋風「須磨」
明石の君の苦惱「薄雲」／萩の上露「御法」

三 日記

今に生きる古典 広がる源氏物語の世界 ↓55ページ
蜻蛉日記(藤原道綱母) うつろひたる菊／鷹を放つ
和泉式部日記(和泉式部) 夢よりもはかなき世の中を

四 物語(二)

紫式部日記(紫式部) 秋のけはひ／和泉式部と清少納言
古典の扉 平安時代の文学——女性と仮名

五 評論

大鏡
東風吹かば／都府楼の鐘／最後の除目
三舟の才／肝試し

六 近世小説

古今和歌集仮名序(紀貫之) やまと歌は
俊頼髓脳(源俊賴) 杵冠折句の歌
無名草子 文

七 漢詩(一)

無名抄(鴨長明) 深草の里
毎月抄(藤原定家) 心と詞
正徹物語(正徹) 待つ恋

八 漢詩(二)

風姿花伝(世阿弥) 下手は上手の手本
去来抄(向井去来) 行く春を／岩鼻や
源氏物語玉の小櫛(本居宣長) もののあはれ

九 漢詩(三)

西鶴諸国ばなし(井原西鶴) 大晦日は合はぬ算用
雨月物語(上田秋成) 浅茅が宿

十 漢詩(四)

雨月物語(上田秋成) 浅茅が宿

精選古典B

精選古典B

漢文編

【第一部】

一 小説

季札挂劍(蒙求)／漱石枕流(世説新語)／梁上君子(後漢書)
病入膏肓(春秋左氏伝)／不顧後患(説苑)／紀昌貫虱(蒙求)

二 漢詩(近体詩)

鹿柴(王維)／宿建德江(孟浩然)／春夜洛城聞笛(李白)
別董大(高適)／涼州詞(王之涣)／送友人(李白)／月夜(杜甫)
八月十五日夜、禁中獨直、對月憶元九(白居易)
遊山西村(陸游)

三 史伝

史記(司馬遷)

鴻門之會(項羽本紀)／四面楚歌(項羽本紀)／烏江亭(項羽本紀)

四 文章

(参考)題烏江亭(杜牧)
桃花源記(陶潛)

愛蓮說(周敦頤)

漁父辭(屈原)

古典の扉 漁師と隠者

五 思想

儒家・道家の思想 ↓54ページ

論語 子曰、「富与貴／子曰、「道之以政／子貢問政

孟子 無恒産而有恒心者／不忍人之心

荀子 人之性悪

老子 大道廢、有仁義／小国寡民

莊子 曳尾於塗中／渾沌

六 小説

酒虫(蒲松齡) ↓54ページ

人虎伝(李景亮) ↓54ページ

七 漢詩(五)

冬夜讀書(菅茶山)／泊天草洋(頼山陽)

桂林狂雜詠示諸生(広瀬淡窓)／送夏目漱石之伊予(正岡子規)

題自画(夏目漱石)／航西日記(森鷗外)

古典の扉 日本の漢詩文 ↓55ページ

【第二部】

一 史伝(一)——三国志の世界

乱世之姦雄(十八史略)／左右莫敢近者(世説新語)

髀肉皆消(十八史略)／三往、乃見(三国志)

当刮目相待(十八史略)／進遇於赤壁(十八史略)

今に生きる古典 日本人と三国志 ↓55ページ
子夜呉歌(李白)／兵車行(杜甫)

二 漢詩(二)古体詩

人面桃花(孟榮)／杜子春伝(李復言)

古典の扉 日本の漢籍受容

三 小説

史記(司馬遷)

廉頗と藺相如 完璧帰趙／渾池之会／刎頸之交

荆軻／風蕭蕭兮易水寒／函窮而匕首見

捕蛇者説(柳宗元)／赤壁賦(蘇軾)

四 文章

孟子 何必曰利／性猶湍水也

荀子 青取之於藍、而青於藍

老子 天下莫柔弱於水

莊子 夢為胡蝶／北冥有魚

列子 愚公移山

韓非子 聖人不期修古

墨子 非攻

五 漢詩(三)

古典の扉 諸子の思想と寓話
長恨歌(白居易)

(参考) 桐壺(源氏物語)／七月七日(更級日記)

六 思想

思想と寓話

七 漢詩(四)

付録 古典文法要覧／古典文学史年表／漢文の基本形式／漢文参考略年表

八 資料

旧国名都道府県名対照図／装束／住居調度／陰暦ほか／古時刻古方位ほか
春秋時代要図 戦国時代要図
見返し 平安京条坊図／京都付近地図 奈良付近地図／中国参考地図

思想家 儒家・道家の思想

中国の思想を形作った諸子として、儒家の思想が最も有名である。儒家は道徳的倫理を重んじ、社会に役立つ秩序を重視する。道家は自然の法則を重視し、素朴な人間本位の生活を送ることを説く。

子曰、富与貴、人之所欲也、不以其道得之、不处也。貧与賤、人之所恶也、以其道得之、不去也。君子去仁、惡乎成名。君子無終食之間違仁、造次必於是、顛沛必於是。

徒然草

兼好法師

あだし野の露消ゆる時なく



現在のあだし野 (北野念仏草)

充実の教材群

古文・漢文ともにオーソドックスかつスタンダードな教材をそろえました。また、興味をもって学べるよう、テーマを設定したり、日本文学とゆかりのある作品を取りあげたりしています。

春夜宴桃李園序

李白

夫天地者、万物之逆旅、光陰者、百代之過客、而浮生若夢、為歡幾何。古人秉燭夜遊、良有以也。況陽春召我、以煙景、大塊假我以文章。會桃李之芳園、序天倫之樂事。群季俊秀、皆為惠連。吾人詠歌、獨慚康樂。幽賞未已、



【桃李園圖】(明代 仇英筆)

古典の読解を支える工夫

作品の成立年代がひと目でわかる「成立年代バー」や、内容をイメージしやすくする図版や地図など、読解に役立つとともに、見て楽しくなるような工夫を随所に凝らしました。

人虎伝

善、属文、弱冠、從、十五載、春、於、尚書、右丞、楊元、榜下、登進士、第、後、數年、調補、江南、尉、徵性、疎、逸、恃才、傲、不、能、屈、跡、卑、儂、嘗、鬱、不、業、每、同、舍、會、既、醜、顧、謂、其、群、官、曰、生、乃、与、君、等、為、伍、耶、其、僚、友、咸、側、目、之、及、謝、秩、則、退、掃、間、適、不、与人、通、者、近、歲、余、後、迫、衣、食、乃、東、遊、吳、楚、

「声」を聞く 物語の歴史

「物語」には「声」がある。 匿名散文によって書きつづられた物語は、語り手によって聞き手に向けられる趣で書かれているから。 今も昔も、語り手は語り手であり、聞き手は聞き手である。竹のなかの「三寸ばかりの耳」を産み出す「声」は、物語の歴史を切り開いてきた。 現代の物語は、その「声」を聞きながら、語り手と聞き手とが、互いに「声」を聞きながら、物語の歴史を切り開いてきた。 現代の物語は、その「声」を聞きながら、語り手と聞き手とが、互いに「声」を聞きながら、物語の歴史を切り開いてきた。

日本の漢詩文

日本人が漢詩を作り始めたのは、飛鳥・奈良時代の頃からである。以来明治に至るまで、漢詩は文学における重要なジャンルとして作り続けられてきた。 万葉集の漢詩の歴史を見るとき、四つの特徴が認められる。一つは、漢詩の山は、奈良・平安朝における漢詩である。二つは、漢詩の山は、奈良・平安朝における漢詩である。三つは、漢詩の山は、奈良・平安朝における漢詩である。四つは、漢詩の山は、奈良・平安朝における漢詩である。



【竹石園】(夏目漱石)

古典への理解を深める「古典の扉」

作品が書かれた時代背景や古人のものの見方・考え方にふれることができ、古典への理解がさらに深まります。

広がる源氏物語の世界

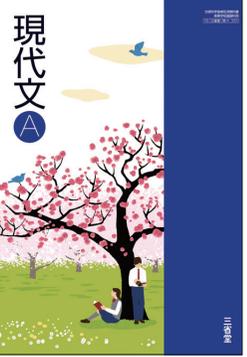
源氏物語は、現在の平安朝の文化の縮図である。その物語は、現在の平安朝の文化の縮図である。その物語は、現在の平安朝の文化の縮図である。その物語は、現在の平安朝の文化の縮図である。その物語は、現在の平安朝の文化の縮図である。



【『源氏日記』参考地図】

古典をより身近に感じる「今に生きる古典」

現代とのつながりという観点から古典の世界について解説しています。古典をより身近に感じられるようになり、古典に親しもうとする気持ちを養います。



評小随表

論説理想現

◎ 実社会に出ることを意識し、働くことや生きることなどについて考察した教材4本を厳選。
◎ 想像したり考えたりすることの楽しさを感じられる4本に加え、近代の名作の抄録11本を採録。
◎ 本を読む楽しさや、実社会で生きるうえでの考え方のヒントなどが詰まった3本を採録。
◎ 書き写すことで文章を理解する力をつける「ウォーミングアップ」文章を視写しよう」を各章のはじめに配置。さらに、「表現プラザ」を設け、写真や絵などをもとに書く活動を設定しました。

第一章 現代の文化を読む1

- ウォーミングアップ
随想
表現プラザ 1
随想
日本語エクササイズ①
文学の名作 1

文章を視写しよう①
求めるものに応えてくれる
絵画をもとに物語を作ろう
最初のペンギン
対義語・類義語
あひびき 舞姫 五重塔

第二章 現代の文化を読む2

- ウォーミングアップ
小説
小説
日本語エクササイズ②
文学の名作 2

文章を視写しよう②
アマガエル
旅する本
四字熟語
たけくらべ 蒲団

第三章 現代の文化を読む3

- ウォーミングアップ
評論
表現プラザ2
評論
日本語エクササイズ③
文学の名作 3

文章を視写しよう③
眼差しを交わす喜び
広告の世界 キャッチコピーコンテスト
絶え間のない流れの中にある生命
敬語
こころ 羅生門

第四章 現代の文化を読む4

- ウォーミングアップ
随想
随想
評論
表現プラザ3
日本語エクササイズ④
文学の名作 4

文章を視写しよう④
境目
モード化する社会
人はなぜ働くのか
自分の思いを表現する
ことわざ・慣用語
初恋 サークス

第五章 近代の小説を読む

- ウォーミングアップ
小説
小説
日本語エクササイズ⑤
文学の名作 5

文章を視写しよう⑤
夢十夜
山月記
わかりやすい文章
伊豆の踊子 赤い繭

資料編

表現の実践1 小論文・作文を書く
表現の実践2 志望動機・自己PRを書く
表現の実践3 面接を受ける
敬語のまとめ/手紙の書き方/原稿用紙の使い方
近現代文学史/ことわざ・慣用語/四字熟語

2 志望動機・自己PRを書く
「志望動機」は、面接で必ず聞かれる質問です。面接官は、あなたの志望動機から、あなたの性格や能力、将来の目標などを判断します。そのため、志望動機は、面接の重要なポイントです。ここでは、志望動機を書く際のポイントや、例文を紹介します。

「資料編」には、学習の手助けとなるだけでなく、就職やAO入試などにも役立つ資料を掲載しました。

学ぶ意欲を高める

意欲をもって取り組めるよう、現代的な諸課題や実生活に生きる話題、身近な書き手の文章を取り上げました。

2 広告の世界 キャッチコピーコンテスト
「広告の世界」は、現代社会の重要な要素の一つです。ここでは、広告の世界について、キャッチコピーコンテストを通じて、学生の創造力と表現力を伸ばすことを目指しています。

実践的な言語運用能力を高める

全ての生徒が抵抗なく取り組むことができ、あらゆる言語活動の基礎となる「視写」から学習をスタート。また、「表現プラザ」では、発想を言葉に変換する活動を取り入れ、実践的な言語運用能力を身につけます。

眼差しを交わす喜び
高畑勲
「眼差しを交わす喜び」は、高畑勲の随想です。ここでは、眼差しを通じて感じる喜びや、人と人とのつながりについて、高畑勲の視点から考察しています。

📀 = データまたは音声でのご提供です。📖 = 冊子でのご提供です。

※指導書・教材類の内容は変更する場合があります。※価格はいずれも本体価格です。

指導書

| | 現代文A | 古典A |
|---|---------|---------|
| 指導資料 | 📖 | 📖 |
| 発問例集 | 📀 | 📀 |
| ワークシート (学びの道しるべ、本文語句、 本文漢字、構成・内容理解、 日本語エクササイズ、 表現活動、視写) | 📀 | — |
| ワークシート (学びの道しるべ、学習の手引き、 構成・内容理解、古文品詞分解) | — | 📀 |
| 基本テスト | 📀 | 📀 |
| 評価問題 | 📀 | 📀 |
| 補充教材 | 📀 | 📀 |
| 教科書原文 | 📀 | 📀 |
| 朗読CD | 📀 | — |
| テスト問題作成エディタ | 📀 | 📀 |
| 学習課題ノート | 📀 | — |
| 教師用教科書 | 📖 | 📖 |
| 本体価格 | ¥13,000 | ¥15,000 |

※「発問例集」の内容は「指導資料」にも含まれています。

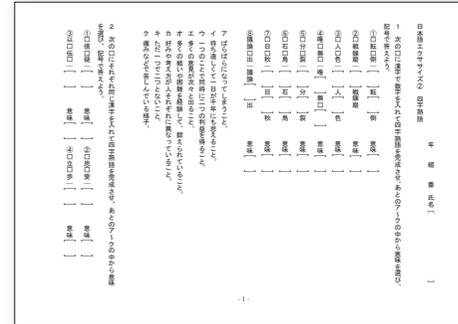
指導書別売品

| | | |
|-----------------------------------|--------|--------|
| 教師用教科書 | 📖 | 📖 |
| | ¥4,500 | ¥4,500 |
| ※指導書セットの「教師用教科書」と内容は同じです。 | | |
| 指導資料PDF版 | 📀 | 📀 |
| | ¥4,500 | ¥4,500 |
| ※指導書セットの「指導資料」の紙面をPDFファイルにしたものです。 | | |

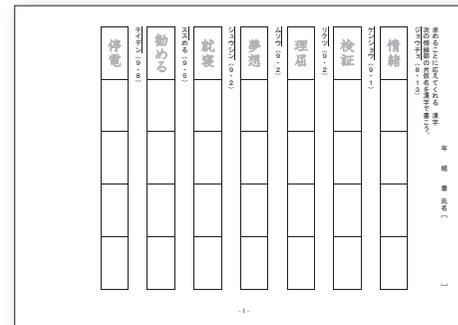
生徒用教材(採用品)

| | | |
|---------|------|---|
| 学習課題ノート | 📖 | — |
| | ¥500 | — |

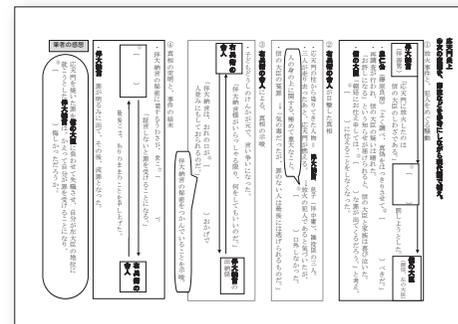
学習の手助けとなるワークシートを豊富に収録しています。



日本語エクササイズシート



本文漢字シート



構成・内容理解シート

◆三省堂高等学校国語教科書編集委員
高等学校・精選シリーズ

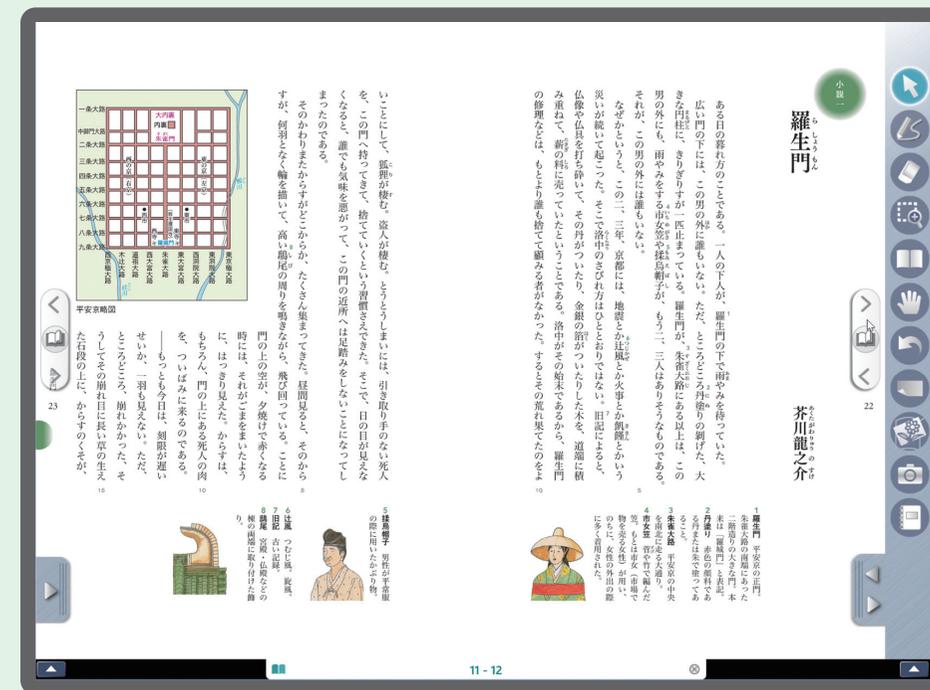
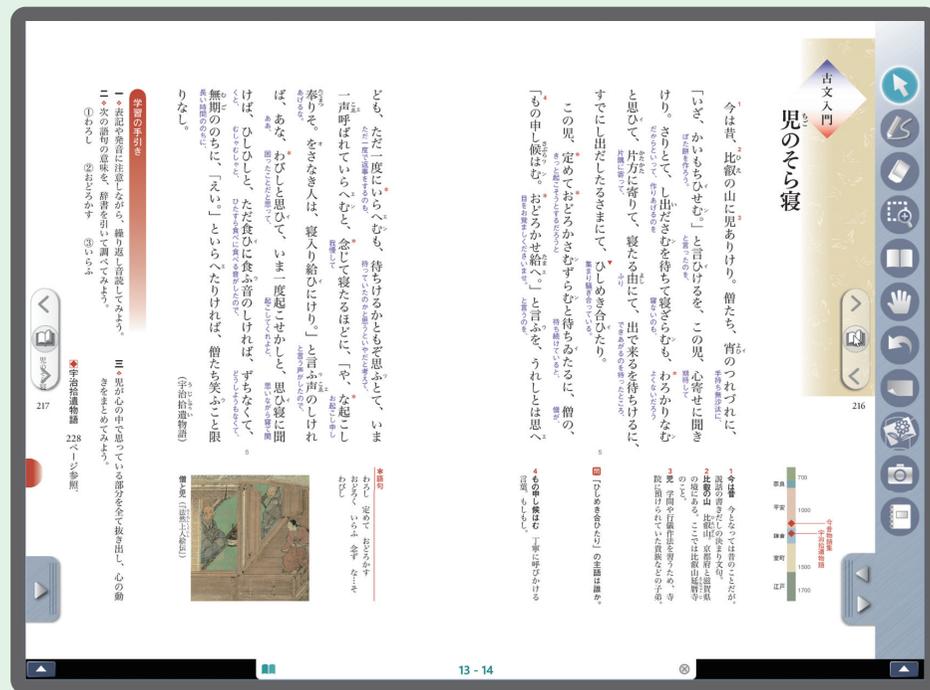
- | | |
|---|--|
| 中列正堯 岩崎昇一 赤井益久 阿部公彦 安藤延明 石村貴博 大島 晃 大高知児 風間誠史 小池保則 小島 昇 齋藤 祐 澤口哲弥 下山大介 杉山志津恵 高野光男 瀧 康秀 田口かおる 田中尚子 戸塚 学 長尾直茂 中村ともえ 奈良部真樹子 早川香世 福家俊幸 細谷敦仁 松下愛理 宮岡良成 宮川健郎 安田正典 柳 宣宏 | 兵庫教育大学名誉教授 東京都立国際高等学校 國學院大學 東京大学 高槻中学校・高等学校 専修大学 上智大学名誉教授 中央大学附属中学校・高等学校 相模女子大学 武蔵高等学校中学校 千葉県立富里高等学校 中央大学杉並高等学校 三重県立津西高等学校 駒場東邦中学校・高等学校 公文国際学園中等部・高等部 東京都立産業技術高等専門学校 清泉女学院中学高等学校 東京都立豊多摩高等学校 愛媛大学 常葉大学 上智大学 静岡大学 千葉県立船橋芝山高等学校 東京都立深川高等学校 早稲田大学 東京都立八王子東高等学校 東京都立上野高等学校 会津大学 武蔵野大学 名古屋立富田高等学校 湘南白百合学園中学校・高等学校 |
|---|--|

明解シリーズ

- | | | | | |
|---|--|---|---|---|
| 中列正堯 三浦和尙 太田 亨 加藤康子 加納諄治 小助川元太 高山実佐 田中宏幸 千葉 聡 福田安典 榊井英人 森下治生 若松伸哉 | 兵庫教育大学名誉教授 愛媛大学 愛媛大学 元梅花女子大学 編集者 愛媛大学 國學院大學 広島大学 横浜市立桜丘高等学校 日本女子大学 大阪府立北野高等学校 元東京都立文京高等学校 愛知県立大学 | 現代文A 中列正堯 岩崎昇一 齋藤祐 高野光男 宮岡良成 森下治生 | 古典A 中列正堯 三浦和尙 伊坂淳一 太田 亨 桑原博史 齋藤貞博 | 兵庫教育大学名誉教授 愛媛大学 愛媛大学 千葉大学 愛媛大学 筑波大学名誉教授 元東京都立深川高等学校 |
|---|--|---|---|---|

※所属は2016年3月1日現在のものです。

指導者用デジタルテキスト 学習者用デジタルテキスト



CoNETS 版 デジタル教科書

三省堂は、CoNETSプラットフォームを通じてデジタル教科書を提供してまいります。

■教科をつなぐCoNETSリンク

CoNETS ビューアの教材では、簡単に学年・教科を横断した学習ができます。

■先生と生徒、生徒と生徒がつながる端末間通信

端末を通じてクラス全員がつながることで、ワークシートの配付・回収や先生・生徒の画面の共有、生徒の意見交換、端末の制御などが簡単にできます。

■オリジナルの教科書や教材が作成できるエディター

キャンパスの上に写真や図版、イラストを自由にレイアウトしたり、テキストを入力したり、外部から画像を取り込んだりしてオリジナルの教材を作成することができます。

動作環境(指導者用)

Windows版 OS: Windows7 SP1、Windows8.1、Windows10(32bit/64bit対応)
 ※WindowsRTには対応していません。
 CPU: Intel Core i3以上推奨
 メモリ: 4GB以上
 ハードドライブ空き容量: 2GB以上(ビューア1GB+教材1GB)
 ディスプレイ: 1024×768ピクセル以上
 TrueColor(32bit) ※1
 ブラウザ: Internet Explorer 11
 その他: .NET Framework 4.5以降
 Aero設定: on ※1
 ※1 Windows7の場合のみ

動作環境(学習者用)

Windows版 OS: Windows8.1、Windows10(32bit/64bit対応)
 (Windowsストアアプリ) ※WindowsRTには対応していません。
 CPU: Intel Core i3以上推奨
 メモリ: 4GB以上
 ハードドライブ空き容量: 2GB以上(ビューア1GB+教材1GB)
 ディスプレイ: 1920×1080ピクセル以上
 ブラウザ: Internet Explorer 11
 その他: .NET Framework 4.5以降

iOS版 OS: iOS8.1以降
 対応デバイス: iPad(第4世代以降)、iPad Air、iPad Air2
 ※iPad miniには対応していません。
 ストレージ空き容量: 3GB以上(ビューア2GB+教材1GB)

※2016年9月現在

主な機能

①教科書紙面をそのまま提示・拡大

教科書紙面をそのまま収録しました。
 重要箇所にもーカーを引くなど、紙面に自在に書き込むことができます。
 ※一部著作権の関係上掲載できない場合があります。

②フラッシュカード

歴史的仮名遣いや古典語彙などのフラッシュカードを搭載。
 古典の学習に活気を生み出します。

③オリジナル教材との連携

自作のパワーポイントやURLも、画面上にリンクをはることができます。
 授業中はワンクリックで見せたいコンテンツを提示できます。

④思考ツール

生徒の思考を深める思考ツールを搭載。
 種々の試行錯誤から生徒自身の気づきを促します。

※機能や画面デザイン等は製品版とは異なることがあります。

●三省堂国語教科書ウェブサイトのご案内

全教科書の
シラバス案・評価規準例などが
ダウンロードできます。

※ワード版・一太郎版・PDF版を
ご用意しています。

ウェブサイト限定の
授業案も掲載しています。

※閲覧にはパスワードが必要です。



●三省堂国語教科書ウェブサイト「ことばと学びの宇宙」

<http://tb.sanseido.co.jp/kokugo/>

三省堂国語教科書

三省堂

☎101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 ☎03(3230)9556(営業) ☎03(3230)9411(編集)

●大阪支社 ☎530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-3 ☎06(6341)2177

●名古屋支社 ☎460-0008 名古屋市中区栄3-25-43 瑞穂ビル4F ☎052(252)9211・9212

●九州支社 ☎810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 ☎092(531)1531・1532

●札幌営業所 ☎060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F ☎011(616)8722